

韓使日記

全

力 5
1917





力邊 5
1917



使鮮日記 軔



明治八年十二月九日朝命アリ陸軍中將兼參謀
 副長官里田清隆ヲ特命全權辦理大臣ト為シ
 朝鮮國ニ差遣セラル
 同二十七日三至議官井上馨特命副全權辦理大臣ヲ副官ト為シ
 同日三至朝鮮國ニ差遣セラル
 隨行ソ命ヲ持セル者敕任官一名奏任官十八名判任
 官十二名合計三十一名アリ姓記姓名左ノ如シ

全權大臣

特命全權辦理大臣陸軍中將兼參謀副長官里田清隆

隨行勅任官

陸軍少將

陸軍少將

外務大丞

官本小一

外務權大丞

森山 茂

開拓少判官

安田定則

陸軍中佐

榊山資紀

開拓幹事

小牧昌業

準陸軍少佐

永山武四郎

開拓使七等出仕

鈴木大亮

陸軍大尉

福田 半

同

勝田四方藏

同

岡本榊之助

陸軍中尉

飯田俊助

同

野崎貞次

同

目黒田 徒

同

井上教之

陸軍少尉

磯林真三

同

中條弘毅

同

山本居周

同

益満邦介

同判任官

開拓使八等出仕

佐藤秀顯

同

松岡讓

外務四等書記生

石幡貞

同

浦瀬裕

外務六等書記生

荒川徳滋

同

中野許太郎

開拓使十三等出仕

小寺秀信

同開拓使十四等出仕
同十五等出仕

山田清重甘利後知

開拓使十五等出仕

河田紀一

正院御用掛

末松謙澄

開拓使御用掛

小松林可也

①

開拓使十四等出仕

甘利後知

開拓使十五等出仕

河田紀一

右二人、開拓使日りに對馬國出張、余

せうし、予隨行人

派發ノ官負簡點既ニ定ム故ニ開拓使出張所内

另ニ一局ヲ開キ以テ此行ニ関スル一切事務

ヲ整理ス浦瀬荒川中野三名ハ對馬ニ在ルヲ以テ本艦

其地ニ到ル日辭令ヲ受ル者トス

同十七日朝余アリ議官井上馨ヲ副官ト為テ同
少朝鮮國ニ差遣セラル

副全權大臣

特命副全權辦理大臣 議官 井上馨

同廿九日副大臣事務ヲ辨スヘキアルヲ以テ先

兎大坂ニ至リ大臣ニ神戶港ニ會シ以テ同

該國ニ航セントス末松謙澄市川隨行ス

同三十日大臣諸隨員ヲ率ヒテ参内陞辞ス小師

所代ニ於テ謁見了テ祝酒并ニ物ヲ賜フ各差

アリ

錦三卷江白縮緬四匹 里田清隆辦理大臣

錦貳卷紅白縮緬貳匹 井上馨副辦理大臣

緞緞子壹卷白羽二重貳匹 種田政明陸軍少將

白羽二重各貳匹 奏任官各名

白縮各壹匹 判任官各名

陞辞儀了テ賢所ニ参拜ス神酒ヲ賜ヒ幣物ヲ

頒與セラル、ト如左

錦壹卷 黒田清隆辦理大臣

紅縮白縮壹匹 種田陸軍將

白羽二重各一匹 奏任官各名

晒布各壹端

判任官各名

判任官ハ賢所參拜ノミニテ謁見ナシ明年
一月六日ヲ以テ發程ノ期トス

明治九年一月六日陰寒 隨行諸員用柝使出張
所ニ會ヒテ大臣ノ至ルヲ待ツ午後一時四十
分大臣諸隨員ヲ率ヒ出張所ヲ發シ海軍省ニ
至ル別ヲ送ル者頗ル多ク又車馬車數ヲ絡譯
^{絶ハス}既ニ省門内ニ入レハ海兵一少隊樂隊一
少隊整列以テ待ツ大臣車ヨリ下レハ則チ聲
樂鏘然トシテ海兵棒銃^{シ樂隊奏ス}又其收肅ニシテ和ナリ

大臣先ツ省ニ入須臾ニシテ脚艇ヲ發シ其水

間ヲ過ギ乃チ冲鷹丸ニ移ル送別諸官ハ岸頭^皆

別ヲ告ク冲鷹丸開行十餘丁時干潮ニ際シ沙

洲ニ覆シテ進ミ得ズ依テ再ビ脚舟ニ移ル偶

ニ移乘シ玄武号ニ達ス一時正ニ四時ナリ

河村海軍大輔送テ本船ニ到ル初メ玄武号ハ
本日午後四時ヲ期シテ發シ高雄函館矯龍諸
艦モ相繼テ發スベキヲ期セリ而メ河村大輔

事ヲ高雄ニ議スルノ間サレク其期ヲ復フセ
ニテ請フ^故以テ之ヲ待テ期ヲ過ケル少時其
信号旗賜ルヲ認テ^テ送ス

辨理大臣獲送トシテ派送セラル、軍艦

三艘曰日進号曰孟春号曰高雄号其運送船

八曰函館号曰矯龍号ノ三艘舍セテ五艘ナリ

玄武号亦運送船中ニ列ス、雖モ此回ハ大臣

及ニ諸随員ノ乗船ニ供セリ而シテ日進号ハ本

日同ク横濱ヨリ発シ孟春号ハ先是長崎ニ在

リ高雄矯龍函館ノ諸艦ハ本艦^{ト同時ニ品海ヲ}

トテ発ス^ト其各艦會同ノ處ヲ對州竹敷灣
ト為ス各艦ニ長及ニ乗組人員左ノ如シ

日進艦船長 海軍少佐伊東祐亨

海軍 上士官 十一名

下士官 六名

海軍 下士官 三十三名

孟春艦船長 海軍少佐空閑廣指

海軍 上士官 八名

下士官 二名

海軍 下士官 十五名

海軍 下士官 四十八名

海軍 下士官 七十五名

海軍 下士官 一名

海軍 下士官 一名

高雄丸船長

海軍准士官

乗但士官

人通計 人

玄武丸船長

監督

乗但士官

人水夫

人火夫

人通計 人

函館丸船長

乗但士官

海軍少佐井上良馨

海軍少佐井上良馨

人水夫

人火夫

シニット

名

矯龍丸船長

監督

乗但士官

シエルブルーン

名

此日同雲漠、雪意アリ癸スルニ臨テ各船祝

砲ヲ放ツテ 癸午後六時ヨリ雨雪霽ニ午

夜ニ至テ歇ム

同七日 雲七凡三寒暖五五度 午前三時相模洋ヲ

過ガ風波甚タ險悪船頗ル郵摺午後稍穏ナリ

高雄丸

艦長

海軍少佐井上良馨

工士官

十三名

准士官

四名

玄武丸

監督

丹波博士号在 松岡時敏

船長

シ、レニミット

機械方

ガセ、スミット

士官

八名

水夫以下

五拾四名

通計六十五名

函館丸

船長

丹波博士号在 純子 未詳

士官

拾三名

水夫以下

四拾三名

通計五十四名

樽前丸

監督

丹波博士号在 武井守三

船長

レ、エ、ブルーン

士官

五名

水夫以下

三拾五名

通計四十三名

同八日

雲七凡一、曇暖五五
度晴雨計三〇、七〇

午前九時淡路島ヲ

過ガ波佐ナリ午後零五分神戸港ニ投錨一時

大臣諸員ヲ^同車^同ニ上陸松鶴樓ニ投カ副大臣

井上馨縣令神田孝平陸軍少將^由海軍

大佐仁礼景範陸軍中佐^{榊山}海軍少佐井

上良馨海軍中佐有地^{量之允}来リ訪フ雲揚艦長

海軍少佐瀧野直俊亦来リ大臣ニ見テ曰某頃

日大坂艦ノ事ヲ為ニ此地ニアリト皇氏大臣

ノ入港ニ際ニ艦内ニ在ラサルヲ以テ其着港

ヲ賀スルヲ得ズ大臣ノ奈港今夕ニアリト聞

ク夜中又恐ラクハ祝スル能ハス故ニ為ニ来
リ謝スト

午後一時三十分高雄号入港入日進函館矯就

ノ三船ハ未ダ影^{見入}

明日午前二時ヲ刻メ本港ヲ祭セントス而メ

副大臣議スル所アリ以テ午前七時ニ決^又是

ニ於テ人ヲ^之ヲ立武号艦長ニ通知セシ

ム

随員中ノ公私信書ハ用振使ヲ經由シテ其外

ニ達スヘキノ規^ヤリト雖モ海軍諸員ノ衆多

ナル或ハ紛乱ノ弊ナキ能ハザルヲ以テ佐藤
 秀頭ヲシテ仁礼休佐有地仲佐井上伊佐ニ告
 ズメテ曰此行海軍諸員ヨリ公私一切ノ書信
 ハ直々ニ其本有テ任テ贈答注復スト聞ケリ
 果ノ然ラハ極善良他日弊ヲ防カン為又
 更ニ之ヲ皆如スト 休礼休佐曰ク 謹謙其旨ヲ
 領ス 午夜大臣初メ一行皆船ニ上ル
 租九日 雲三風ニ寒暖六五度 午前七時船將ニ登
 セント以病副大臣ノ到ルヲ待ツセ時十分副大臣
 乗船向三十分起錨天氣晴朗ニシテ海面平ナリ

午後三時三十分船阿島ヲ過ク燈臺寮附属船
 ラブ口号此ニ碇泊シ三国丸ハ兵庫ニ向テ駛
 ル白帆腹微風ヲ孕ミ緑波紋ヲ為ス無数ノ島嶼
 本艦ヲ迎テ又送ル只其島嶼ノ躲避却退スル
 ヲ見テ艦ノ前進スルヲ覺ヘス午後六時ヨリ
 細雨霏ニ
 岡十日 雲九風ニ寒暖計六二 午前八時周防灘ヲ
 過ク昨夜未酷寒雨結雪ト為ル傍近諸山銀
 色皚然夕リ同九時四十分馬関ニ投錨ス微雨
 又降ル既云天副大臣上陸南南都町徳永号

ニ投ス同十時三十分大臣諸随員^及ヲ將テ上
陸ニ東南部町豊永号ニ投ス勅大目ノ據定キ
係^{安田才利官}トナリ但小牧^{中津}幹事鈴木^{大亮}等出仕ハ事務ノ
アルアリテ午後零四十分ニ至テ上陸ス諸員
ノ將ニ上陸セシ^{二路}スルニ當テ大臣布令シテ曰
■各負其課長ニ告ケスニテ撰ニ他出スルヲ
禁ス故大坂丸乗組海軍少尉渋谷直武同主任
副荒井勝利訪問ス午後十一時大臣及ヒ諸随
員盡ク帰艦セリ

同十一日 雲九、凡三雪ニ寒暖五 午前二時ヨリ
ニ度晴雨計三〇、六四

西凡漸ク烈ク飛霰時ニ降ル^{午前}時神戸
ヨリ電報アリ曰日進艦及ヒ函館号昨夜當港
ニ投錨シ矯龍丸ハ本日午前七時入港セリト
玄武号^{暫ク}此ニ碇泊セシハ素ト副大臣ノ請ホ
ニ出テ、昨夕^{既ニ}起錨ノ意議アリ^{日進}日進函館及
ヒ矯龍ノ三船凡波ニ阻礙セラレ未タ達シ得
ズ對州ニ前往シテ之ヲ待ニヨリ^此此^港ニ
泊^在テ電信郵便ノ便宜ニ據^{リ以テ}ニ^ハ如カマ
ト議決シ^{先ツ}其^期期^ト四時過レバ即チ
程ト定ム然^ルニ風雪殊甚シク波浪漸ク險惡

依^乃再^千期^レ延^シ明日午後二時ノ拔^キ錨トス

用十二日 雲三凡一寒暖計三〇九〇四五 夜未雪積ル^レ教

寸日光^レ映^レ射^レテ一段ノ景^ヲ致^ラ添^フ午前十時

三十分ケ^テ六^セムス上陸^シ龜山ハ^レ艦ニ

到^リセキスタントヲ以^テ緯度ヲ測^ル諸官往

テ之ヲ觀^ル午後一時^ノ歸^ル艦午前十時三十五分

高雄丸^起錨^シテ對^州ニ向^フ繼^テ雲揚^ル艦入^レ港

ス曾^テ沈没セシ大坂丸ノ事ヲ^レ調査ノ為メ十

リト云^フ又英國軍艦アリアリ通過^ス又本大臣

等ノ後ヲ追^フテ該國ニ到^ルモノナリト云^フ

兩々終^ニ其^時午前十一時副大臣及ヒ

森山樵^大玉歸^ル艦ス神戸ヨリ電報アリ曰

石炭^ノ輸積

甚^ク夕遷延^シ函館矯^龍昨夜^ノ該港ヲ^テ発^ス日

進^ル艦ハ今朝解^纜スヘシト午後二時^本馬^船開^クヲ^テ発

ス天晴波^穏ナリ午後五時玄海ヲ過^ルニ至^テ

東風漸^ク烈^シク船^ノ擱^キ擧^グシテ困^キ甚^クシ午後九

時高雄丸ヲ^レ追^ハル^ル過^ルガ^ス

十三日 雲三凡一寒暖計三〇六〇 午前七時尾崎岬ヲ

過^キ午前七時五十分對^州竹敷灣ニ^テ投^キ錨^ス孟春

又歲原ヲ距^ル三

艦早既ニ湾内ニ在リ既ニ艦長笠岡廣間廣
盾長(寄)冬事渡辺徹同少将大坪利晋末
先是中年田海軍少将鳳翔艦ニテ釜山ヨリ帰
リ巖原ニ在リ廣津少佐同ク巖原ニ在リ而シテ此行
通辨人員ヲ要スルヲ以テ小林可也ヲ巖原ニ
遣西大臣ノ着港ヲ報ジ且外務四等書記生浦
瀬裕同六等書記生荒井徳滋中野許太郎等ニ
随行ノ辞令書ヲ送ルニム午後八時十五分帰
艦 廣津外務少
午前十時十分ハ艦砲七発ヲ放チ春艦ノ祝砲ニ

艦

午前十一時三十分高雄丸着港ス
午後一時三十分陸軍少将種田 海軍大佐
仁礼景範陸軍中佐樺山 海軍中佐有地
海軍少佐井上良馨来リ面ス既ニシテ海軍
少将中年田倉之助来リ大臣ト談話刻ヲ移シ
テ去ル
先是森山權大佐上陸ニ廣津少佐少佐ト面議スル所ナ
リテ將ニ帰ラントス適ニ兩大臣ノ上陸ニ際
ニ兩舟相遇フ終ニ揖ヲ送シテ兩大臣ニ從テ

竹敷村長崎縣士族高島才三郎ノ家ニ至ル廣
津弘信少丞其復會書ヲ大臣ニ呈ス安田定則少判官小牧
昌業幹事鈴木大亮モ亦從テ座ニ在リ尋テ仁礼景
景範井上良馨佐ヲ喚招以テ議スル所アリ翌
曉三時一同帰艦ス

同十四日雲ハ凡一寒暖六〇度午前十時三十

分中牟田倉之助少將及ヒ鳳翔艦長海軍少佐山崎景則来ル

午前十一時四十分函館丸入港午後零十分

矯龍丸入港同一時四十分永山准少佐本由郎矯龍

丸監督武井半三會計函館丸船長蛭子未治郎

及陸軍陸軍士官数名来ル

河田紀一写真器ヲ携テ上陸ニ現地碇泊諸艦

ノ真影ヲ寫セトモ終ニ成ラズ其製藥未夕精

ナラサルヲ以テナリ

午後七時ヨリ微雨霽時ニシテ晴曾テ隨行持

余浦瀬裕荒川徳滋中野許太郎来テ船ニ上

ハ外務省韓語生徒人船ニ上

外務省韓語通辭世張

浅山頭藏

中村莊次郎

田刪ル甘川後知河田但
二八本地ニテ出張
余ナリニガ遂ニ該國
隨行スルトナリ

吉村平四郎

阿比留祐作也

此夜大臣令ヲ布テ曰孟春矯龍函館ハ明日午
前七時玄武高雄ハ同九時ヲ以テ釜山浦ニ向
テ進行スヘシト

竹敷村ハ巖原ノ北四里以内ニ在テ落ニタル
二三十戸ノ寒村^{ナリト雖}而^ニ其湾タルヤ天賦ノ
良港ナリ^{ナセ}ムス氏曰此是日本国諸港ニ甲
タリ後来亞細亞本部トノ関係アルニ至ラハ
海軍ノ根據トナレハ此地ニ如クハナシト然則

セームス以下教語ヲ刪ル

今ノ茅屋敷様変シテ巍然天ヲ摩スルノ煉化
石造ノ樓閣ト為ル^{モ豈其}時無ランヤ湾ノ廣袤凡
ソ十五丁海深フメ雄ナク丘山之^トヲ圍^真高
カ凡ソ五十尺乃至百五十尺ニ至テ各處ノ森
林松栢鬱葱タリ其遠ク群山上ニ秀テ瑰奇嵯
峨タルモ^ト白岳^{ナリ}ト名ツク相巒又揖讓シ温藉
氣ヲ降シテ肯テ抗セザル如キモノ龜坂^{ナリ}ト為
ス岸頭處ニ懸崖絶壁^{アリ}ト以テ海ニ枕ム崖
樹扶疎トシテ老松之ヲ^ト推^綴點^綴ス景象洵トニ美
ナリ^然ト雖モ地味硯薄ニシテ居民業ニ苦シニ

終カニ漁獵ヲ以テ生計ヲ宮ニ故ニ其屋舎最
モ荒涼タリ

同十五日 雲八九ニ寒度^神五ニ 午前七時孟春函

館矯龍起錨ニテ進往ス同九時高旗發ス本艦
之ニ進ク九時三十分日進艦ノ尾崎港口
ニ入ルヲ見ル即チ号旗ヲ以テ直キニ釜山ニ
進ムヘキヲ令ス其艦忽チ艦ヲ轉ジ旗章ヲ掲
ケテ祝砲^{スル}ヲ十九^{本艦}發海路平穩竹敷ヨリ海
門ニ至ル凡ソ六海里海門東ヌル處西南角ヲ
尾崎ト云ヒ東北角ヲ牛嶋ト称ス西岬相距ル

牧島ニ又後段ニ出
此ヲ略彼ヲ詳ニスルハ
新載ニ於テ同ニカラシ

約畧三海里午後二時三十分朝鮮国釜山浦外ニ至ル對
州ヲ顧望スルハ深青一髮波間ニ横ハルヲ見ルノミ鶴尾
山ト称相島ノ間ヲ過グ其終相島ノ傍ニ起リ廣島
陪從^{シテ}雜樹叢生スル者ヲ絶影島ト為ス此島牧島
ニ位シ其相距ル大約三海里鶴尾終相ノ間ヲ過レハ即
チ釜山浦ナリ鶴尾山ノ西北報ニシテ低下ナル處ヲ就
塘ト称ス本艦漸ク近クニ及ニ一條ノ烽烟其山腹ニ燃ルヲ
見ル蓋シ警報スルナリ該國從來異様船ノ其海岸
ニ近クヲ見レハ皆烽火ヲ舉ゲ堵道相繼^ニテ以テ京城

二達スト云

進テ湾内ニ入レハ先ツ粉壁瓦屋高朱差松樹

陰森タルヲ船頭ニ見ル即チ我公館外リ初港外

在テ日進艦ノ先ヲ進テ見ル乃チ信号ヲ照スニ奏砲数声

本艦ノ後ニ継テ来ル而テ矯詰高雄ハ先ツ既ニ投錨セ

本艦午後二時五十分ヲ以テ錨ヲ下ス他ノ諸艦亦

相後ルテ二十四五分ノ差アリテ皆達ス鳳翔艦モ頃日對面

ニ滞泊セシガ昨日轉ジテ此ニ来ル滿珠丸ハ從來外務省

ノ雇テ所ト為リ久ク此地ニ注来シ而テ今又適ニ港内ニ在リ

於是汽船ノ数合計八艘各自日旗ヲ飄シ館内ニ感觀

近古未嘗有ナリ湾中諸所ニ韓船散布シ我諸

艦錨ヲ投スルニ及テ漸或近ツ或ハ遠サカ

大中小均善シカラスト雖凡其製皆同シ船身

粗大木板ヲ用テ甚々剗磨セス木釘ヲ以テ之

ヲ綴リ寸鉄ヲ施サカト云フ小大共ニ艦猛船ヲ

以テ呼ブ之ヲ聞ク該國另ニ戰艦平時之ヲ農商ニ當ナシ一朝事

アルレバ此船ヲ驅テ敵ニ當ル全沿海漁商船舶ニ

ナリ艦體ト為ス自其調奏指顧ニ辨ス

可シト兵農一致誠ニ古人ノ遺法ヲ得タリ而

メ今則チ如何

望遠鏡ヲ取テ沿岸ヲ周覽スルニ旧草梁
豆毛用雲諸部落ノ土民黄白ノ旗ヲ建テ一隊
二三十人^諸處ニ屯集^{スル者}以テ釜山城^{左右}ニ及
ブ而メ守門降門近傍奔走スル者最モ多シ
船時ニ本艦ニ近ツクヲ觀ルニ其人骨相凡
俗稍清國人ニ似タリト雖^{南朝}氏衣冠^小製却^カキ之
キ勝ル^キ似タリ服上下ヲ分チ上衣下裳ト為
スモ^ノ男女共ニ同シ皆白布ヲ以テ裁縫シ袖
窄クシテ長ク指頭ヲ掩^{フニ}襟ハ深ク紐ヲ右ニ
釦シ裳ハ濶大ニシ屈伸自由ヲ得^其中間ト衫

ヲ製フモノアリ多クハ青紺色^單布ヲ用テ作
スリ胎背ヲ覆^ヒ腰下ニ至リ縫綴セズ袖大
體^ニシテ膝ニ至ル^蓋キハ明服ノ遺^風トナ
ラシ^ハ髮ハ^冠冠^ヲ以^テ異^ニス^其丁年ノ者ハ^結束^シ幼^者ハ^頭頭ノ中央ヨリ^{左右}分^テ断^ス冠ハ^狀狀チ東
坡笠ノ如ク^{蟬翼}疏布網ノ如キ^物物ヲ以テ作ル^亦亦
精巧^ニ色^々尽ク^黒黒シ^小小民^ハ只^白白布ヲ以テ
頭^顱顱ヲ纏^ヒ耕^耘耘ニ就ク^雨天炎暑ト雖モ^猥猥リニ
傘^笠笠ヲ用フル^ナシ^國國ニ^定定制アリト云フ
午後五時陸海軍佐軍^來同^{午後}五時三十分兩大

臣隨行●奏任諸官員●上陸●乃于諸艦
長ヲ會シテ江華口ニ●開行ノ第^時度ヲ議ス其
所決左ニ^{如シ}

釜山ヨリホル子ル島ニ至ルノ距離大約四
百●三十海里ナルヲ以テ日進孟春函館矯
龍ノ四艦ハ其速力每一時間五里平均トシ
テ算スレハ八十六時間ニシテ●●達スヘ
シ云武高雄ノ兩艦ハ八^里平均トシテ五十
三時間ニ達スルヲ得則チ其差三十二時二
十分トス^以是日進孟春函館矯龍ハ本月十

一字下ケ

七日正午十二時發程ニ玄武高雄ハ同十八日
午後九時二十分ヲ以テ錨ヲ拔キ^華活島ニ向ヒ
ホル子ル嶋ニ於テ諸艦會同シ而ル後ニ孟春
艦ヲ以テ路ヲ漢江北口ニ取り江華府ニ至ル
水路ノ測量ヲ為シ其歸報ヲ待テ航程ヲ定メ
以テ進注ス可シ其時宜ニヨリ各艦ノ發注
キ^多少^延縮ヲ生スルハ^苦シカ^ラス

日進孟春函館矯龍四艦ハ兩風ノ險^都易ニヨ
リミルトン島^巨文ニ回避スルヲ^ルハ
ミルトン島ハ東經大約百七十七度二十二
分北緯大約三十四度零三分ニシテ全羅道

川東徑大約百二十六度三十分北緯大約
三十七度零八分ニシテ南陽島北緯大約
三十九度四十分ニ至ル大凡四百九十二
マイルトス而ス風潮ノ順逆ニ依テ行ク
易ク帰ルニ難キノ患アリト云フ
種田政明仁礼^{大佐}梶山實地^{中佐}有地^{中佐}亦未テ
議ニ卷ス議畢テ諸艦長皆散不兩大臣及ヒ諸
隨員ハ夜半艦ニ帰ル

此日大臣館長代理^{外務省書記生}山之城祐長ヲシテ副差
●別差ノ就館ヲ促シ我兩大臣既ニ艦隊ヲ率
ヒ京畿道江島ニ向テ進出^{アリ}タリ宜ク之
ヲ貴国京城ニ轉致セラレヨト^{乃チ其}口陳書ヲ通

サシム別差曰ク事●此ニ至ル亦何ヲ力言
ニ唯願クハ本日入港ノ艦名并ニ乗組人員ヲ
示サレヨ余ハ艦トシテ之ヲ稟報セサル可ラ
●^{サシム}祐長此般重大公幹余^{是等}是等^{人名艦名等}知ル
ヲ得ズト[●]別差惘然トシテ去ル

同十六日^{雲ニ風一寒暖四五度}此日大臣將ニ
政府ニ具狀^{稟報}所アラントス諸隨員ヲシテ
文書ヲ調理セシム又
宇田定則^{少佐}諸艦乗組人員ヲ調査シ書記生
一名及ヒ韓語通辭四名ヲ各艦ニ配附^{スル}

在如之

外務省書記生

中野許太郎

右 艦乗組

韓語通解生徒

浅山頭成

右 艦乗組

内

中村庄次郎

右 艦乗組

内

吉村平四郎

右 艦乗組

所派使在英人ケアテニセリムス同クケアテ

ニシミツト上陸セント欲ス兩大臣許サズ蓋
シ韓人我邦ノ外交逐年親密ナルヲ猜嫌スル
ヤ久シ而メ今突然兩人上陸セバ士民必ズ言
ハン日本人外夷ト合從シ此異様ノ大軍艦ヲ
発シ来テ我國ヲ侵界スト愚民ノ謬傳意ハ為
スニ是ラカト雖モ或ハ恐ル一語ノ訛言其国
ニ蔓延シ此回使事ノ一大障礙ト為ルヲア
ンヲ

同十七日

雲五風一寒暖計三〇九〇

午前一時諸員調

理スル所ノ稟報文書成ル小寺秀信ヲシテ之

ヲ齎ラシ満珠丸ニ乗テ馬関ニ赴カシム正午
正午十二時日進孟春丞鑑矯龍ノ四艘江華
ニ発注ステ各巨砲十余発以テ
海戦演習ヲ為ス此日亦沿岸處ニ彼国人ノ
聚散陸續タルヲ見ル

仁礼景範大佐ヲ以テ護衛兵指揮長官タラシム

副大臣森山大佐安田定剛少判官小牧鼎業幹事鈴木大亮

等●●●上陸シ日暮帰艦

同十八日 雲ハ凡一寒暖四二度 午前十時大臣森

山梅大佐率テ上陸シ正午帰艦

午後三時三十分仁礼景範大佐井上良馨少佐来リ大臣

ニ告別シ五時起錨シテ発注ス此夜雨霰降り

風浪高シ十二時後ニ至ル

同十九日 雲ニ凡一寒暖五度 度晴雨計三〇八四

同二十日 雲一凡一寒暖四度 午前九時三十分大臣

及森山梅大佐安田定剛少判官鈴木大亮上陸シ野戦砲攻

ハ短銃ノ試験発射ヲ為シ正午帰艦

此日外務少丞廣津弘信病ヲ以テ随行ヲ辞シ

午後上陸シテ帰航ノ便ヲ歟

満珠丸昨夜帰報ノ期ナリシニ今朝ニ至リ猶

未夕其影跡ヲ見ス因テ大臣屢ニ入ヲレテ絶
影島上ニ登ラ之ヲ望ミシム猶見ルナシ是レ
力為ニ本船モ亦開行前進ス^{ルヲ得ス}皆領ヲ延
テ之ヲ待ツ此間無事故ニ近旁凡ハ民俗ヲ詳悉
スルヲ得タリ

此港ハ朝鮮ハ道内ノ一良港ニシテ港口東南
ニ向ヒ直徑大約三^里里於楮島周圍凡ソ一里
有半西岸ニ人家六七アリ純影島ハ其西ニ起
リ裾ヲ公館前頭ニ引ク周圍凡ソ七里高サ凡
ソ三百尺^古未牧馬多キヲ以テ對州人只牧

ノ島ト稱ス^{ヤリ}實ニ我日本公館ト相面ス

和館ト稱ス者嘉^吉五年始メ三所ニアリ曰東萊郡釜

山浦曰熊川郡乃而浦曰蔚山郡塩浦而大天

壬辰變後只釜山一處ノミ其後我ヨリ數ニ

館ヲ移サント請ハトモ肯ニセズ寛文十

二年ニ至テ始メテ和館ヲ草梁項ノ地ニ定ム

延寶六年新館落成ス今ノ公館是レナリ

館ノ地界スルニ石垣ヲ以テス高サ五六尺厚

廿二尺^三均ニカ^不ラズ以テ其三面ヲ圍ミ只港

口面ヲ一方ヲ缺キ釜山ニ出ル一路門ヲ

以テ港未出入ヲ便ス

田方今在勤外務省
官員三名等書也
之城松長門七等書也
尾岡啓向住永長
医員一名高田英策
及此醫學者二名住
三名而大居留商民七十余人あり

三大廳六行廊
ト称ス
此中今一棟ヲ毀
テリ

設ケテ之ヲ守ル者ヲ守門將ト云フ其他
通辨官輪直及古来ノ通規ナリ石垣内約六万
坪餘其公務ヲ措辨スルニ係ル屋宅諸國
政府ヨリ之建造シ道路甚穢セハ亦其人民ヲ
凋弊シテ掃除ス其他宗寺饋送等ノ古例規尤
モ多シ今此ニ廢棄整セバ

館内 石垣内ヲ總稱 公私家屋数十宇アリ而メ
一字ノ大ナルモノ之ヲ數戸ニ分居シ官民共
ニ居皆公廳ハ小丘ノ半腹ヲ占據シ儼然一廓ヲ
為ス丘上并天金刀比呂羅ヲ安置シ丘ノ高サ

約一百尺古松暢茂シテ鬱葱タリ丘ノ西又
空屋數棟アリ維新前宗氏家臣ノ住スル所ナ
リ之ヲ過ル數丁ニシテ門アリ外廊ノ石垣ト
相接ス門外一ノ大厦アリ宴廳ト稱ス該國官
吏宗氏ノ使臣ヲ享宴スル所ナリ廳ノ左右ニ
家アリ館外此ノ如キモノ四戸伏兵廨ト云フ
其政府ヨリ館内ノ非違ヲ警シテ為設クル所ナ
リ
船橋ニ接ス一丘海ニ突出シ岩間古松並
生シテ絶影島ト一帯水ヲ隔テ稍奇趣ヲ

支所アリ
二岳アリ故
所人ヲ刑スル

為ス者龍尾山ト云フ俗呼岬ト称ス頂小祠アリニ清正ノ威靈ヲ祀ル

小祠アリ海岸ニ沿テ守門ヲ出テ東北スル

二十丁許道左ニ瓦屋数軒アリ即千訓道別

差ノ任所タリ對面ノ華堂一區ヲ為スモノ大

東館ト云フ宗氏親ヲ往テ殿拜ノ礼ヲ行所

ナリ殿拜ノ礼今木東館之重門兩廡

アリ寧遠門控海門ト云フ近時頗ル粉飾ヲ加

フヲ以テ遠望稍美ナリ距ル一數丁又畫心ニ

石壁ヲ以テ高ク山嶺ニ行路ニ門ヲ設ケテ誠察ニ此ヨ

リ以内日本人民ヲ入レス是之際門ト云フ唯

設

春秋ニ度彼岸及ビ中元節ノミ踰テ以テ

古館ノ基趾ニ踵リ其祖先ノ墓ニ展ス

ルヲ得ルノミ墓ニ展スルト云ハ名ノミニテ

墳墓アルモノニハ其行クモノ只我商民此名ヲ藉テ其

地ニ徜徉スルノミ此期程外ニ出ルハ只此

時ヲ為ス際門外ノ一村坂下ト云ヒサレク隔

ツテ同レク湾ニ傍フ聚落ヲ古館ト云フ此ヨ

リ陸路用雲豆モヲ徑テ釜山ニ至ル

釜山城ハ我公館ヲ距ル一ハ大約三里強ニシテ

兩山間ノ小丘ニ據リ海ヲ控ヘ街ヲ前ニス統

ラスニ石壁ヲ以テニ重シテ此使之

ニ居ル商民凡ソ二千家アリト雖凡甚夕
蕭散タリト云フ東萊府ハ又此中リ二里ノ北
ニアリテ市街凡ソ五戸アリト云フ

其山ハ別々九徳天馬鷓尾四明等アリト雖凡
皆頑石磊砢トシテ杉檜豫章等ノ美材

●勿論榛栗櫟菘ノ薪炭ニ供ス可キモノト云
モ亦甚夕之ニ

徑未輸出スル所ノ物産ハ席豹皮熊皮綿布鱧
鱈北魚牛皮牛角牛馬骨牛毛草海四羅リ人參鱈
膽等ニシテ我邦ヨリ貿易スル物品ハ銅鐵陶

黃芩牡丹皮山茱萸

海氣

器明礬紅硝砂糖菓子素麵葛紅粉唐木綿青布
罌等ナリ往年宗氏ニテ此貿易ヲ管理セシ時
ハ毎年三十萬圓ノ輸出入アリ而メ維新以後
衰耗シテ大畧十萬圓ニ止ル此ト云フ

午後三時曾テ公館へ準備スル所ノ野戰炮ニ
門并ニ彈藥七十發ヲ本船ニ移シ積ム

夜未微雨アリ曉ニ至テ晴

同廿一日晴陰不定滿珠丸未夕来ラズ諸負尤モ無聊
ナリ館人来テ鯉魚ヲ賣ル長サ三尺余巨鱗細
口淡刺タリ釜山近傍ノ一大沼ニテ獲ル所ト

忍久人家の雨ニシテ
山は雪ナラン

云フ味最モ羨ナリ公館ノ西南海岸ニ突出ス
ル山ヲ天馬峯ト名ツク其麓ニ二村アリ
南富民云フ對州人皆之ヲ一ツ家村ト称ス家数百余アリ墨トシテ
穀粟ヲ製スル土窖ノ如シ二村ヲ距ル数丁許ニ捕魚ノ梁
アリ五鹿島辺ニモ亦之ヲ設ク長サ一二丁杭ヲ標シ
テ船舶ノ妨碍ヲ防ク其捕魚ノ尤多キニ當テ
ハ夜間無数ノ火ヲ點シ鼓ヲ搥テ鉦ヲ鳴ラシ
以テ喧鬧ヲ極ムト云フ亦奇ナリ
午後一時ヨリ陰雨冥濛タリ
同二十一日雲九凡ニ寒暖五五度晴雨計三〇七五曉未船窓ヲ

圍ヶハ東萊近傍ノ諸山玉ヲ敷キ銀ヲ積ム昨
夜雨結景テ雪ト为ルナリ

午前冊十時船長及ヒ器械方ニ条約結繼ノ書翰
ヲ送ス

此日江華島ニ於テ朝鮮国官并應接ノ事宜ヲ
擬立スルヲ左ノ如シ

應接事宜

一江華島到着ノ上ハ脚艇ヲ送シ随員中ヲ
江華府ニ簡派シ府使ノ面接ヲ乞ヒ口陳
書ヲ以テ大臣ノ未着ヲ報スヘシ府使若

ニ面接ヲ肯ニセザレバ書翰ヲ以テ之ヲ報
カヘシ彼ノ官員先ツ来ツテ我意ヲ問フ
ニ於テハ随員ヲ遣シ日進艦内ニ應接
ヘシ他艦ニ来リ近リクハ雖モ之レニ接
セガ必ス日進艦ヲ指シ教ヘ即チ信号ヲ
以テ同艦及ビ玄武丸ニ報スベシ日進艦
ニ接スル直ニ延テ相接ス可シト雖モ相
接人員五名ニ過グベカラズ且其應接ノ
人ハ特ニ大臣ノ指令ヲ受ケシ者ニ限ル
ヘシ

一大臣上陸ノ期ニ至ラハ各艦ノ脚艇ヲ
集メ先ツ儀仗兵ヲ遣リ岸上ニ整頓セシ
メ然ル後大臣上陸アルベシ其祝砲ノ発
不発ハ時機ニ因ルベシ

一大臣應接ノ場所ヲ警衛スルハ儀仗兵ノ
規式ニ準スベシ
一撥立スル所是ノ如シト雖モ現場ノ
形況ニ依リ或ハ多少変更スルヲアルベ
シ

接待事宜

一江華島ニ在テ彼ノ官弁来訪ノ時●之
 一ヲ日進艦ニ接待スルニ於テ該艦ニ
 一豫●扣所^并接待所^ヲ設ケ置クヘシ
 一彼ノ官弁若シ他艦ニ近ヅクモ一切其
 一乗艦ヲ拒ミ日進艦ヲ指示シ直チニ信
 一号ヲ以テ同艦ト玄武丸トニ報スベシ
 一玄武丸ハ報ヲ得テ即チ委員ヲ派シ
 一應接セシムヘシ日進艦ハ其委員^未来
 一ラサル時間彼ノ官弁ヲ其扣所ニ待タ
 一シムヘシ彼官弁ノ来ル衆多ナリト雖

毛同時ニ五名以上乗艦スルヲ容ルスヘ
 カラス且帯剣ノ外兵仗ヲ携フヲ禁シ茶
 奴ハ酒ヲ饗スル等臨時委員ノ適宜施行
 ニ任スヘシ

午後五時大臣官本小一ヲ^幸上陸シ中年田
 少將ヲ訪ヒ鳳翔艦ヲ馬関ニ派遣センヲ議
 ス尋テ副大臣ヲ迎ヒ●其議●了^結シ^テ

同夕七時帰艦
 同廿三日^雲 鳳翔艦士官来ル同艦
 ヲリ^時 遞送^計●擬スル文書午後零十分成ル即チ

寒暖^{午前七時}
 六十五度

小牧昌業^{幹事}鈴木大亮^{次郎}ヲシテ來^來ラシテ行^行ラ之ヲ托
セシム該艦ハ馬関^{馬関}ニ於テ馬関ニ於テ電機ヲ
以テ政府ノ稟裁ヲ取り再ビ大臣ノ所在ニ復
命スル指令ヲ受タリ故ニ他日ノ便ヲ計リ公
館ニ在^在留セル^{外務省雇}韓^韓法^法通^通辭^辭竹^竹田^田邦^邦太^太郎^郎ヲ附^附從^從セ
シム廣津^{廣津}弘^弘信^信亦該艦ニ便^便シテ帰^帰朝^朝ス
午後一時本船先ツ釜山浦ヲ拔^拔錨^錨入^入鳳^鳳翔^翔艦^艦モ
亦^亦繼^繼テ^テ癸^癸ニ^ニ東^東西^西航^航路^路ヲ^ヲ異^異ニス海^海波^波穩^穩ナルヲ
以^以テ^テ進^進行^行最^最モ^モ迅^迅疾^疾ナリ

使^使鮮^鮮日^日記^記

十月二十四日 雲ハ凡ニ寒^寒暖^暖四五^{四五} 午前二時巨文
島ヲ過^過ギ同七時濟州島ヲ約東南二十マイル
ノ間ニ認^認ム此島ハ朝鮮南洋中ノ最大島ニシ
テ周圍二百七十五マイルアリ全島一山高ク雲
霄ニ逼^逼ル邦内三高山ノ一ニ居^居リ六午五百五
十八尺アリト云フ白雪玲瓏トシテ波濤ノ上
ニ位^位ス頗^頗ル佳^佳眺^眺ナリ
同廿五日 雲ハ凡ニ寒^寒暖^暖三四^{三四} 午後二時漸ク
晴^晴雨^雨計^計三〇^{三〇}ハ^ハ七^七

フオ儿子儿島ニ近ツク此間島嶼甚ク多ク遙
カニ日進高雄益春函館及ビ矯龍ノ五艦ヲ淡
霧中ニ恐テ進行ス高雄附属小湊船出テ、水
ノ近岸ニ泊ルニ逢フ午後三時十分フオ儿
子儿島傍ニ投錨ス種田仁礼樺山有地井上永
山埜子町田ガルノ及ビ陸軍武官并ニ衛艦
長即時来リ賀ス此夜随行諸官儀仗兵及ビ護
衛艦ニ布令スルヲ左ノ如シ

一該^{朝鮮}国官負接待ノ時ハ勿論平常各礼節ヲ
嚴ニシ該国人ニ對シ傲慢放肆ノ舉動アリ

リ其輕侮ヲ来シ我國體ヲ辱メガル為メ
堅ク左ノ條款ヲ遵守スベシ

一諸艦乗組人負ハ從テ其上官ノ指令ナク
擅ニ上陸スベカラス

一道路ニ徘徊放歌シ又ハ往來ノ人ニ對シ
無礼ノ舉動且ツ其妨碍ヲ為ス可ラス

一隈リニ人家ニ入り又ハ門牆ヨリ窺視ス
ハカラズ

一市店ニ捨テ飲酒スベカラス

一婦女子ニ對シ調戲指笑スヘカラス

- 一賣品タリ凡彼トノ欲セサルヲ強ホシ或ハ其價格ヲ爭論スル等事アル可ラズ
- 一社寺墳墓等国人崇奉ノ地ニ於テ無礼ノ所為アル可ラズ
- 一田畝ヲ踏藉シ又ハ竹木等ヲ折リ取ル可ラス
- 一銃獵ハ勿論妄リニ發砲スヘカラス

連加

- 一海兵ハ特ニ大臣ノ許可ヲ徑ルニ非ザルハ上陸スベカラス水火夫上陸ノ節ハ取

締リノ為メ士官ヲシテ附添シムベシ

此夜大臣ヨリ玄武丸船長シミツド矯龍丸船長シ、エルブルーン及玄武丸機関師ゼエフシミツド等ニ書ヲ贈ル其文註ノ如シ

今般拙者朝鮮國へ奉使ニ付歲冬ノ際至難ノ航路盡力ノ段感謝スル所ナリ然レ此後江華島ニ進ミ同國政府へ談判中萬一彼ヨリ暴舉ニ及フ節ハ不得止相當ノ防禦ヲ為シ國旗ヲ保護セザルヲ得ズ其機ニ至リ貴下身上ニ不慮ノ儀アル時ハ貴國政府ニ對

不相濟以第十^リ 執テハ右等ノ場合ニ
於テハ貴下ノ事務士官ノ内ヨリ代理不若
ニヨリ危険ノ地ニ臨マサルヲ要ス
又也、又ム、セームスニ贈ル書アリ其文畧同ト
雖氏但此人今擔當專任ノ事務ナキヲ以テ貴
下ノ事務代理云云ノ語ヲ省クノミ其翌各答
書ヲ呈セリセームス及ビブル^{ブル}ニハ唯其意
ヲ領セル旨ヲ言ヒセ、又スニミツドハ大臣ノ
厚誼懇到ヲ謝シ危険ニ臨ムト雖氏其身ヲ顧
ミスカラ^{シト}盡スヘ^{シト} 但末段不慮ノ儀云

云^テ讀^クニ^テ難^クテ若^シ此禍ニ罹ルアレバ其處
分如何結局アルヘキヤ心ニ関スルハ尤モ是
ニアル由ヲ陳バ獨リ^シミツドノ答辭人ヲ
シテ感郵セシム曰ク時ノ治乱ニ関セズ^貴 政
府ニ大馬ノ^カ書ヲ盡サント欲スルハ某ノ宿志
ナレハ其職掌上ニ於テ性命ヲ玉直スルハ敢
テ惜ム所ニテラ^{自ラ}不厚誼ノ辱キヲ拝スト雖氏
亦素志ニ^{自ラ}背カサラン^テヲ是務ムト
此夜大臣仁礼^{大佐}景^{シテ}範ニ指令^{シテ}之^ハ所^{アリ}曰江^華
島辺測量ノ為メ矯^シ詔^ス丸ヲ^{江華島}北口ニ孟春艦

江華島
漢江南口ニ明廿六日午前七時解纜乗遣ス
ハ其潮候ニヨリサニク此時限ヲ延縮ス
ルモ害ナシトスカカ

安田少判官及ヒケアテニゼリムスモ亦矯執
托テ測量ノ為メ江華島ニ至ルヘキ命ヲ承
ク河田仁一随行ス既ニシテ副大臣モ亦是ニ
赴クトナリ又

月二十七日 雲ハ凡三寒暖三〇度 拂曉孟春艦將

日發セントトス而メ高雄丸附屬ノ小汽船來ル
昨日淡水ヲ需メ為メ近岸ニ往クク之レヲ待トス東歸ラヌ

偶々高雄丸ノ士官脚舟以テ日進艦ニ至ラント
シテ退潮ニ激シ數里外ニ漂流セリ是ニ於テ
先々孟春艦江華島ヲ止メ而テ彼小汽船ト脚
舟ヲ扶ケン為メ八時四十分其方向
ヲ異ニシテ發シ午後三時漸ク兩舟ヲ曳テ本所
ニ還ル潮流ノ湍急ナル推知スヘシ蓋シテホ
ル子此島ノ東方江華島方角山ヲ距ル大約五海里ニ
シテ河川湾中ニ屹立シ其周圍三丁許高サ僅
カニ五十尺ニ過ズ楮ノ頭禿ニシテ草木ナ
シ水手船艦ヲ泊スル可ク港口ニ加ルニ

脚船ヲ下レシニ東セラ
ントス

潮汐ノ干満甚シク東ノ浦ニ二丈四尺ノ
差アルニ至ル是ヲ以テ波浪怒激シ海水常
ニ混濁ニメ清ム時十少勢ニ船舶ヲ漂蕩ス
至此意スヘキ所ト為ス

午前七時矯龍丸將ニ奏セントトス故ニ脚船
下レテ副大臣●安田定則ケプテニゼム
大等所ニ向リ時正ニ退潮ニ際シ濁浪洶湧
漕進スルヲ能ハズ依テ矯龍丸ヲ呼テ本艦ニ
近ツケ綱ヲ投シテ以テ其脚船ヲ曳キ辛フシ
メ達スルヲ得九時十五分江華島ニ向テ進往

ス種田少将永山武四郎亦同ク此船ニ乗リ去
ル

仁礼^{大佐ヲシテ}景範明日再ヲ奏シ南陽仁川等沿海
ヲ測量スヘキ旨ヲ達^{函館九ニ}セシム

月廿七日 度晴南計三〇 午前七時三十分
孟春艦^{江華南口ニ發シ樺山中佐ノ小艦ニ乗リ亦向テ南陽ニ向}十時函館丸^{伊東中佐}ニテ南陽ニ向
フツケプテニシミツト松岡讓^{福田}荒判徳滋甘利後

知等同乗セリ
午前十時三十分韓船二隻アリヲ和ル子ル島
傍ニ来^列日進艦^列ニ近ツキ一封ノ書ヲ呈ス士

○諸軍計及出陣大尉等

官受テ之ヲ開封ス其表面書或左ノ如シ

賚奉物目

封中書目左ノ如シ

白米五石
牛壹頭
猪五口
鶏二十首
醬壹壺

酒 三壺

南陽府地方官姜

控見^{日新号}三名ノ韓人ヲ其艦内扱所ニ待タシ乃士
 官ヲ又賚奉書目ヲ携ヘ来リ大臣ニ報セシム
 乃^本官本^大一小牧^韓昌業ヲ遣^命通辨浦瀬裕會
 計亦也ヲ將テ往テ接待セシムルニ茶菓煙酒
 等ヲ以テス其韓人^手則チ南陽府使姜潤書記
 官一人武官^如一人トナリ彼曰過日

未既ニ拝接セシト欲スレモ風浪ニ阻テラレ
意外ノ遅延請フ之ヲ恕セヨ故テ問フ貴下等
何国ヨリ来リ那邊ニ赴カニ欲スルヤ且各艦
乗客幾人ナリヤ此地方ニ未泊ノ諸船ハ余輩
臆トシテ必ス其来由ヲ問ヒ上司ニ報セサル
ヲ得ス願クハ指示セラシヨ我曰大日本國ヨ
リ貴國ニ差遣セラレタル黒田井上兩大臣一
行ノ船艦ニシテ其乗組人員ハ海船大凡五六
百人ナリ府使曰曾テ未泊セシ船艦ノ内三隻
ハ既ニ解纜セリト問ク知ラズ何地ニ赴キシヤ

且貴國大臣何等事故アリテ此ニ来ルヤ我曰
二隻ハ江華近傍ニ至リ一隻ハ淡水ヲ需メシ
為メ近岸ニ赴ケリ大臣派遣ノ件ハ前既ニ我
官員ヲ以テ釜山ヨリ東萊府使ヲ經テ貴朝廷
ニ報シタレハ貴國ノ領知スル所ナルヘシ而
メ今則此ニ泊セリ請フ貴下亦速ニ之ヲ京城
ニ報セラレヨ種々ノ物品今日録ノ如ク賚贈
セラルハ厚意謝スルニ辞ナシ雖然我諸艦
幸ニ缺乏ノ憂ナシ之ヲ受ルヲ欲セス請フ其意ヲ領トテ其物ヲ
還カシ間ガ如キハ貴國昨今新年ニ際セリト

國事^{陛下}及^{陛下}大院君ヲ始メ六曹百官皆無事ニ越
年アラレシヤ國內モ恭平無事ナルヤ彼曰然
リ我曰恭^テ奉賀ス我 天皇陛下モ安寧ニ越
歲致サレタリ彼曰謹^テ奉賀ス我曰今般派未
ノ大臣ハ我國至重ノ大臣ニシテ古来斯ル重
大ノ使節ヲ外國ニ派出セラレタル例甚々少
シ就^中里^田大臣^ハ如^キ本官陸軍中將ナルヲ
以テ麾下ニ属スル軍伍最モ多ク殊ニ内閣ノ
重任ヲ兼子如^クニ我邦北部ニ於テ概子貴國
疆域ノ半ニ及フノ大地方ヲ惣轄シ以テ開拓

事務ヲ掌管セラル、ノ人ナリ姜之ヲ聞^キヤ
遽然恭敬ノ意ヲ表シテ曰貴國大臣江華ニ来
貴アリテ我大臣迎接面儀ノ上使事ヲラセ
ナラン則^チ下官^ハ直^ニ本^日拜^候ノ委曲ヲ上司ニ
申シ轉^シテ京城ニ稟報セハ不日再^ビ京師ヨ
リ公然同情官ヲ差遣セラル^ルアルヘシ我曰
同情官^ハ来リ接セラル、^ハ甚^クタ欣^ビシ但他
船ニ餘室^ナ必^ズ直^ニ本^艦ニ来臨アル
ハ^ニ敢^テ同^江華府留守ノ姓名^ヲ如何^ニ曰趙秉武
曰我大臣ヲ迎接スヘキ貴國大臣誰^ト為^ルスヤ

日知ラガルナリ曰兩國大臣ノ未夕親接面儀
ニ及ハサルヤ我ガ五六隨員ヨリ貴國官弁ニ
照會シテ商議ニ及ブナレバ今其姓名官弁誰
位ヲ書シテ豫シメ交付セントス貴下果シテ之
ヲ知ラコト欲スルカ曰國臣ノ願ハ所ナリ是
ニ於テ宮本森山石田小牧鈴木五人ノ本官姓
名ヲ詳記シテ送ル興フ姜謝テ之ヲ領シ而テ具物品
ヲ受取セラレン申ラホムルヲ甚タ切ナリ我
於ニ受ケズ去ルニ臨テ艦内ヲ一覽セン
ヲ清船長官ヲ煩船長官煩炮彈丸諸器ヨリ運轉機関

ニ至ルニテ皆指點シテ之ヲ眺スニ賞歎ノ
色アリ午後二時辭シ還ル宮本等亦帰テ事由

大臣ニ報ス

所使ノ服上衣下裳共ニ白ク道袍象骨能同ニ詳ナリト
天翼同上トテ其上ニ頭ニ馬尾ヲ以テ製
シタル東坡笠ノ如キ烏帽ヲ戴キ支那靴ヲ穿
テタリ天翼ノ紐ハ色赤シ正三品以上ノ官之
用ルヲ得即午堂上官ナリ
午後七時四十分遠岸ニ篝火ノ如キモノヲ見
ル詳ニ其方位ヲ考ルニフオ子ル島ヨリ正東

ニ数點アリ北^位大凡二十度ニ方リタル處ニモ
亦見ユ皆水煙中ニ明滅ス隱見ス

同二十八日 雲ニ風一寒暖計四六日暖ニ氣伸^揚フ
度晴西計三〇九四

此處ニ投錨以來瘴烟迷濛未^レ嘗^レ今日ノ如^ク

用晴^快ヲ^レナリ

午前九時^仁礼景範未^レ嘗^レテ本艦ニ^{分遣セ}ル信号

士官本田有智ヲ諭シテ曰凡^レ艦隊ノ例規大

臣在^ル所ノ艦三本櫓[■]■ナレハ中ニ国旗ヲ

掲ゲ後ニ長旗ヲ掲ゲ二本ナレハ只国旗ヲ後

櫓ニ掲ゲルノミニニ長旗ナレ後櫓ヲ以テ中

央ノ位ト做ス是^レ萬國艦隊ノ通規ナリ今玄

武丸ヲ觀ルニ二本櫓ニテ前ニ国旗ナリ後

ニ長旗アルハ規外ニ属ス故ニ速ニ長旗ヲ撤

シテ国旗ヲ後櫓ニ掲ゲヘント有智之ヲ大臣

ニ^棟述^ハ大臣之ヲ許ス日進艦ハ遠般護衛艦隊

中ノ將艦ナリト雖モ長旗ヲ掲ケズニ前櫓

ニ代將旗ヲ掲ルノ^今是亦艦隊ノ制規ナリト

云フ

此時仁礼^{大佐}景範^{大佐}海兵一小隊ヲ近島ニ上陸

セシメント請フ之ヲ容ルス

午後七時十分函館丸廻ル其測量及ヒ探水ノ
始末左ノ如シ

二十七日午前十時ニ拔錨シイムペラツリ
一セ湾ニ向フ其間深淺ヲ測量シ午後四時
進テ大阜島ノ北側ニ投錨シ直ニ三隻ノ脚
舟ヲ下シ甲ヲ東北乙ヲ南丙ヲ東ニ分派シ
テ淡水ヲ探ラシム甲ノ乗組勝田大尉 松岡
讓^姓子末次^部荒井^川徳滋甘利後知等仁川府管
下五里洞ニ上陸シテ居民ニ問フニ淡水ノ
所在ヲ以テス居民三十五六人驟カニ集リ

之ヲ擁遮シテ其家ニ入ラントラ忌嫌スル
モノ、如シ^即チ導テ田畝ニ至リ泥水ノ畝
間ニ在ルヲ指シ且自ラ飲テ以テ衆ニ示ス
然レモ其水混濁汚穢飲料ニ供スヘキ^カラス
干亦之

五里洞ノ地タル仁川府ヲ距ル一凡ソ二里
松樹飒爽タル丘山ヲ東北西三面ニ繞ラシ
戸数凡ソ三十余アリ時正ニ諺國新年ニ際
スルヲ以テ居民多クハ酣醉泥ノ如ク我諸
吉腰ニ寸兵ナキヲ見テ悔リ近ツキ鬚髮ヲ

撫摩之衣服ヲ牽引シ動モスレバ袖袋ニモ
手ヲ入レ搦ラントス其舉止尤モ無状ナリ
兩舟ノ上陸セシ地方ニテモ醉漢甚々多ク
秋水夫等ヲ見テ或ハ逃散スルアリ或ハ宥
然大声ヲ發シテ恐嚇セントシタルモアリ
シト云フ

乙舟ハ南陽府下大阜島ノ鐘懸洞ニ上陸ス
居民之ヲ待ツヲ甚々厚ク海岸ニ毛氈ヲ敷
キ以テ休憩所トシ為ニ傍近ノ滾ニタル流
泉ヲ示シ辭氣ヲ降シテ禮遇シ夜ニ入り船ニ

帰ルニ臨テ又數人提燈シテ之ヲ送ルト前
二所土人ノ所遇ト甚々膏壤セリ地方ノ淳
漓ニ依ルカ將夕官吏ノ能否ニ関ルカ此
夜五里洞ノ山後ニ於テ烽火ヲ舉ク

同二十八日午前十一時韓船一隻アリ韓人
二名ヲ乗セテ函館瓦ニ來リ同情ト書シタ
ル紙片ト口陳書トヲ出シテ曰我朝廷嚮ニ
高貴ノ官員ヲ仁川ニ派出シ貴國船艦ノ來
意ヲ問ハシム今將ニ此ニ來ラントス故ニ
余輩先ツ未^リ眞就テ其妨碍ナキヤ否ヲ問

フト我譯官ヲシテ答ヘシメテ曰同情セシ
ト欲セバ宜ク「ヲ」ル子此島ニ碇泊セル日新
艦ニ至ルハシ是我成規ナリト彼ハ情急將
ニ去ントシ桎ノ木片ヲ出シ請テ曰余輩不
幸今櫓軸ヲ折レリ更ニ作ラント欲シテ工具
ヲ欠ク請フ為ニ之ヲ作レ乃チユ匠ニ命ジ
●作リテ之ヲ与フ彼懇謝シテ去ル
是日漢江南口近傍ニ往タル一隻ノ脚舟
リ其歸ルニ及テ稍大ナル一ノ韓船ニ逢フ
官吏二三名アリ船頭ニ天蓋ノ北キ傘ヲ樹

テ其下ニ虎皮ヲ布テ之ニ坐シ兎玉某志賀
某ヲ請フテ其船ニ誘ヒ讓テ虎皮ニ坐セシ
メ今朝其属更ヲ函館丸ニ遣シタルヲ筆
談シ須臾ニシテ別ヲ告ク兎玉等水ノ巻ル
處ヲ回フ彼レ其近旁ノ島ヲ指シ彼所ニ往
ケバ清泉ヲ得ヘキト道ヲ九ヲ示セリト云
フ

同二十九日 雲ハ凡一寒暖計五ニ度 午前十一時
仁禮景大佐 晴雨計三一〇 仁禮進高雄日船大身島ニ向
ラ解纜スヘク函館丸ハ猶此地留テ 矯龍鳳翔

二船ノ東ルヲ待テ玄武号ノ所在ヲ報知シ矯
 龍ノ直千ニ大阜島ニ進性セシメ鳳翔ノ来ル
 ヲ待テ共ニ来會スヘキ旨ヲ諸艦ニ布達セシ
 ム継テ日進高碓ニ艦ハ本日午後一時発スヘ
 シト●同人ヨリ報シ来ル
 午後一時本艦先ツ「フオル子」島ヲ祭シ午後
 四時「イムペ」ラツリ「ロ」灣ニ錨ヲ下ス日進高
 碓相繼テ至ル
 此夜仁川江華大阜等地方ニ数點ノ篝火ヲ見
 ル

一、小舟ヨリ坐ツ正ム
 二、子分註スヘシ河上
 三、右接ノ前ニ在リテハ
 四、左側ニ在ルニ在リテハ
 五、細ニ述ル

同三十日 雲三瓦一寒暖計五の度 午前九時十五
 分韓船二艘アリ来ル 大者我百石積程一
小者我二十石積程一
 小舟ヲ後ニ繫ク軸 幅五六寸長一尺五六寸
 ノ旗二本ヲ 艦ニ天蓋ニ類セル白布地ニ
 青布ノ縁ヲ 樹縁端ヨリ又青布ヲ垂下
 地ル物ヲ樹テ 天翼ヲ着タル官吏二人内ニ座
 ヲ占ム 本艦ヲ距ル四五十間ノ處
 ニ投錨ス乃チ先ツ浦瀬裕ヲ遣シ其船ニ上テ
 来意ヲ問ヒシ 且我カ面接ヲ要セバ日
 進艦ニ注ヲ待ツヘシト傳ヘシメ其名刺ヲ懷

仁川濟物浦ニ上陸シ山ヲ踰ントシ

仁川濟物浦ニ上陸シ山ヲ踰ントシ

ニシテ帰り報る因テ宮本小一森山氏ヲシテ
注テ接セシム末松謙澄浦瀬裕之ニ屬ス
テ接セシム末松謙澄浦瀬裕陪坐ス接話數刻
ニシテ帰り報使館始末ニ詳シ此ヨリ以後
吳慶錫ハ屢ニ清國ニ往キ畧外國ノ事情ヲ通
曉セリト云フ玄昔運ハ一昨年以來釜山ニ奉
職シ森山氏ト屢交際事宜ヲ商議セシ者ナリ
此日拂曉ヨリ脚舟ニ隻ヲ汎シ水ヲ仁川地方
ニ需メシム夜ニ至テ橋帰ラズ依テ又另ニ舟
ヲ出シテ之ヲ迎フ九時十分三隻共ニ帰ル其

途ニ●●仁川濟物浦ニ上陸シ山ヲ踰ントシ
●顧テ砲台ノ近キニ在ルヲ認メ往テ見ルニ
台ハ赤土ニ小石ヲ混和シテ築立セリ田舎ノ
晒麥壠ニ同シ砲四門アリ長サ十尺ニ連テ十
磅作キ常ル人レキヲ架トテ運轉スル機関
車ナシ故ニ其内ニ在ル處ヲ土ニ埋メ高低左
右定位アリテ復タ動力●ス可ラズ硝薬ヲ紙
ニ捲リテ火門●挿シ火ヲ點ジテ遠ク避ケト云フ之
本邦ノ同●皆京地ニテ鑄造スル所ニメ今ハ
則廢シテ用止ズト蓋テ不用者ヲ要地ニ備フ

其言怪也
士民其府使ノ意ヲ以テ酒餅
ヲ齎ラシ来リ饗ス而メ我皆受ケ不浦頭ニ二
個ノ井アリ水^清洌故^以テ^後日屢ニ
舟ヲ送テ汲^取シム凡ニ村民漸ク見慣テ或ハ
桶ヲ荷テカヲ扶ケ薪ヲ焚テ我水夫ノ寒ヲ凌
ガシムルニ至レリ

同五十一日 雲三凡一寒暖計五五 午前四時又水
ヲ仁川ニ取ル 同九時十五分孟春艦江華前江
ヨリ帰ル已ニ^ニ其艦長来リ測量始末ヲ報不^不
尋テ仁礼景範并工良馨等亦来ル

日十一時二十分仁川汲水ノ者帰ル其土人荒
川凍流ニ語テ日和艦ノ永宗城ヲ撃テヨリ荒
廢甚シク孤兒寡婦ノ飢寒ニ泣モノ道路相望
^悲慘ニ堪ヘサルナリ日自作ノ葺我之ヲ如
何セン

昨夜仁礼景範報シテ曰高雄丸ノ小汽艇其
汽罐ニ損所アリ明日ニテ修繕セシムヘシ
二月一日 雲七凡一寒暖計五二 午前四時又水ヲ仁
川ニ取ル浦瀬裕二名士官ト往テ督ス防禦使
兼仁川府使尹映庭席ヲ擔ハセ自ラ海岸ニ出

迎ニ浦瀨等ニ謂テ曰君等帯刀セラル、ヲ視
レハ是必ス士官ナラシキ官ニシテ豈輕ニ此
汲水ノ賤役ニ就クルノ理アラナヤ更ニ又何等
ノ所為アルヤ曰怪ム勿レ我大臣若シ水夫
ノミヲ棄置シ貴地ニ於テ或ハ輕躁ノ舉動ヲシテ
アト田畝ヲ踏藉シ或ハ婦女子ヲ調戲スル等
貴官等ヲ煩スニ至ルアラナラシク恐レ之ヲ警督
センカ為メ特ニ我輩等差遣セラレタルナリ
曰注意ノ深キ此ニ至ルカ實ニ感佩ニ堪ヘスト
乃チ岸頭ニ席ヲ設ケ酒肴ヲ用テ饗セントス

浦瀨等之ヲ辞ス尹映曰君ト傾蓋如故ヲ得濁
酒十杯以テ余ガ歡ヲ表セントス菲薄ノ壺饗
何リ難ク辞スルヲ須ン然レ氏強テ勸ムルハ亦
礼ニ非ス若シ碇泊中糧食缺乏ノ憂アラハ請
フ速ニ余ニホメラレヨ余既ニ管下ニ布
令ニ豫メ貴國ノ需ニ應スヘキ準備ヲ為サシ
メタリ且我人民貴國人ヲ見バ必ス厚遇シテ
礼ヲ失フ可ラズト諄ク諭シオキタレハ幸ニ
貴大臣ニモ念慮ヲ勞マシル勿レト告ケラレ
ヨ且語ヲ別レ去ル尹映ナルモノ夙ニ豪雄ノ

聞ハカリ子曾テ陸軍大將ニ任ズシ。深入開港通
商ニ志アリ故ヲ以テ時論ニ合ハシ。廟堂ニ立
ツテハワズ今又水軍提督トナリ現ニ二千五
百人ノ兵ニ將タリ位從ニ品ニ班スト去テ而
メ其兵即今ハ京師ニ歸休セシメタルヨレナ
リ

午後三時江華橋龍丸江測量ニ赴キタル矯龍丸歸ル副
大臣種田少將政明安田少將定則永山准少佐威輝セームス等
本艦ニ歸頓ス始メ該船メ漢江北口ニ赴クヤ直径ノ
半後中時矯龍丸將ニ石炭ヲ本艦ニ移シ積

捷路ニ就テ進ム而メ于瀉ニ遇テ進ミ得ス依
テ回轉ニテ漕進ス故ニ一日ヲ虚費セリト曾
其江中ニ於テ一韓船ノ来リ近ク見ル其
人曰同情ノ為今時ニ我官吏来ルアラントス
妨ナキヤ否曰ウ無シ於是安田少將定則陸軍士官
ト先ツ行テ彼船ニ上ラト入而メ適ニ彼同情
吏肩輿ニ坐シ乗馬ノ属官二人ト共ニ来テ岸
頭ヨリ船ニ移リ来リ同十一品官安田定則彼
船ニ至テ應接シ話了テ乃チ別ルト去
午後四時矯龍丸石炭ヲ本艦ヨリ積シ積シト

不事放りて止

昨夜^{仁礼景範}外国船航之来ルヲテハ問訊ノ事務左ノ

如ク著手スヘシト達セリ 公文録

同日

雪四尺一寒暖計五三度晴雨計三〇ハニ

午前四時三十分

又遣^レテ水ヲ仁川ニ取ル

午前九時祝砲振則ヲ定メ仁礼景範ニ達スル

左ノ如シ公文録

十一時仁礼^{大景範}景範ヨリ高雄丸ノ小汽艇修儀

既ニ成^レリト報アリ

午後零三十分森山^{権大生}及ニ浦瀬裕仁川ニ赴ク

府使尹映ニ會シテ議スル所アリ同十時歸ル

昨夜随行人員當直ノ法ヲ制定スルヲ左ノ如

ニ

同三日晴雲四凡一寒暖五四度午前九時矯龍丸

来テ石炭三石斤ヲ本艦ヨリ移シ積ム

午後二時玄武函館橋北三艦乗組人負姓名簿

ヲ仁礼景範ニ送致ス其請ニ應ズルナリ

同四月度三凡一寒暖計四九午前九時浦瀬裕

仁川ニ赴ク尹映ニ會ニテ議スル所アラシ小

下ルナリ

午前十時諸艦●●●ホル子ル島ヲ拔錨シ

テ江華島前ニ進出ス其列左ノ如シ

- 第一孟春艦
- 第二高尾艦
- 第三矯龍丸

第四五武丸 第五日進艦

各艦共二七八丁ヲ隔テ旗相應ニ汽烟相連
リ午後一時三十分草芝嶺前頂山島下ニ
其未夕臺下ニ達セサルヤ韓船二隻アリ我艦
ニ近キ尙肅セントスルモノ、如シ而メ諸艦
迅速ニ通過シテ數丁ノ後ニアリ錨ヲ下ス
ニ及テ漸ク追隨シ来ル時ニ午後四時ナリ例
ノ如ク日進艦ニ待タシメ森山茂鈴木大亮ヲ
差遣シテ接セシム末松謙澄書記ニ荒井徳滋
通詞タリ

午後二時二十分日進附屬ノ小汽艇ヲ発シテ
浦瀬裕ヲ仁川ニ迎テ午後八時帰ル

四五日 雲五風一寒暖計五〇度 午前七時二十分

森山茂安田定則佐藤秀頭松岡藩浦瀬裕

ヲシテ江華ニ向テ発往セシム海陸軍士官數

名亦另ニ汽艇ヲ裝メ同行ス

午前十時仁礼景乾及ニ矯龍丸會計係人達書

且矯龍丸ニ令スル左ノ如シ

一矯龍丸ハホル子島ニ下碇シ鳳翔艦ノ至ルヲ待テ共頂山島ニ来ル
但来九日午前七時マテニ鳳翔艦至ル時ハ左ノ手續ヲ為シ直ニ
頂山島ニ帰航スヘシ
一ホル子島上ニ号旗ヲ掲ケ其下ニ書翰ヲフラスコニ入レ旗竿ニ

〇〇 艦中ニ在リテ之ヲ書キ候

④荒川等ノ仁川ニ至ル
 ヤ府使出テ、射ヲ以テ
 人ヲ見テ、射ヲ以テ、四五
 人、皆、角ヲ以テ、手ニ
 シテ、立ツ、角ヲ、割、長
 角ヲ、中ニテ、ホラ、以テ、
 西面、射リ、之ヲ、際、
 以テ、相距、七十、余、間
 ニシテ、射、後、
 巧手ヲ見タリト云フ

結置ケル
 一南陽府使へ口陳書ヲ具シ鳳翔艦支他日本国旗ヲ掲タル汽船ホル子島
 傍近ニ来ラハ江華島ニ前住スルキ旨ヲ傳ヘ且島上ニ掲タル号旗ニ地方人民ノ
 用十一時十五分橋龍丸ヲ花料灣ニ發遣スル以
 才函館丸ト夫替

午後一時十分目賀田健野崎貞以磯林真
 上荒川徳滋甘利後知ヲ仁川ニ山本展周井上
 中尉陸軍及ビ阿比祐作ヲ草芝ニ發遣シ以テ地
 理ヲ察訪セシム同四時ヨリ十時内ニ皆還ル
 夜坂本益満少尉江華ヨリ森山安田
 等ノ書牘ヲ携ヘ歸テ該地接信ノ概畧ヲ大臣
 ニ報ズ此行江華軍官金慶錫其部率ヲ率

兩人ヲ送り以テ草芝ニ来リ草芝會使端舟ヲ
 発シテ終ニ本艦ニ達セシメタリト乃チ江華
 留中入ノ謝水并ニ安田之則等ニ贈ル書簡ヲ
 作り荒川徳滋之ヲ發ラシテ草芝ニ往キ金慶
 錫ニ托シ以テ江華ニ傳教セシム
 同六日 雲九凡ニ寒暖三四度 午前八時ヨリ微雪
 晴雨計三〇六〇 降リ漸次霏ニトシテ密雪琪濛タリ午後三時
 三十分歇ム四山忽チ昨日ノ面ヲ革々タリ
 午後一時浅山頭派至ル森山茂安田定則等
 書ヲ帶有シ江華ヨリ陸行ニ草芝會使ニ依頼

障害
 加心
 皆ヲ
 告諭
 置ク
 へレ

シテ舟ヲ假リ以テ来ヨリ

午後七時四十五分森山安田^等以下江華ヨリ帰

ル此行其留守趙秉式^厚副都監^{都監}兼^兼管^管中^中滋^滋承^承ニ

ノ事^事宣^宣或^或ハ^ハ旅館ノ敷設等ヲ協議シ其日ヲト

シテ先報スヘキヲ約シテ歸レリト

同七日 ^{雲三凡ニ寒暖計四八度} 午後一時四十分

函館丸^{チル子ル}花^{チル子ル}津ヨリ満珠丸ヲ導キ来ル外務権

大臣野村靖及ヒ小寺秀信ヲ送リ来ルナリ

十一月十七日小寺秀信ノ釜山ヲ発スルヤ即

日馬関ニ上陸シ電^{大正村}機^{大正村}ヲ以テ使事ヲ政府ニ

稟^稟シ以テ裁^裁ヲ仰^仰ク同十九日^{外務権大臣}野村靖命ヲ奉

シ陸軍御山縣有朋ト共ニ東京ヲ発シ同ニ

十三日馬関ニ入港シ陸軍卿ハ該地ニ留リ

野^野村^村及ヒ小寺秀信ハ同二十四日満珠丸ニ

テ発程シ翌日歳原ニ着ス同二十九日鳳翔

船ノ馬関ヨリ^{保港ニ}来ルニ遇フ同三十一日乃チ

共ニ発シ即日釜山浦ニ至ル而シテ鳳翔船汽

鐘ニ損處アルヲ以テ此ニ留リ二月一日満

珠丸釜山ヲ発シハミルトニ島ニ泊シ同三

日発程シ午後四時漱子島ニ至ル同五日帆

一月十七日 二月十七日 二月十七日

シテ舟ヲ假リ以テ来ヨカリ

午後七時四十五分森山安田^等下江華ヨリ帰

ル此行其留守趙秉式^等面接シ我両大臣上陸

ノ事^宣或ハ旅館ノ敷設等ヲ協議シ其日ヲト

シテ先報スヘキヲ約シテ帰セリト

同七日 雲三凡ニ寒暖計四八度 午後一時四十分

函館丸^{ナリ}花^{ナリ}津ヨリ満珠丸ヲ導キ来ル外務権

大臣野村靖及ヒ小寺秀信ヲ送り来ルナリ

小寺秀信ノ釜山ヲ発スル^等ヤ即日馬関

ニ上陸シ電機ヲ以テ使事ヲ政府ニ稟シ以テ裁

稟^等シ以テ裁^等ヲ仰^等ク同十九日野村靖令ヲ奉

シ陸軍御山縣有朋ト共ニ東京ヲ発シ同ニ

十三日馬関ニ入港シ陸軍御ハ該地ニ留リ

野^村靖及ヒ小寺秀信ハ同二十四日満珠丸ニ

テ発程シ翌日歳原ニ着ス同二十九日鳳翔

船ノ馬関ヨリ^等来ルニ遇フ同三十一日乃チ

共ニ発シ即日釜山浦ニ至ル而シテ鳳翔船汽

鐘ニ損處アルヲ以テ此ニ留リ二月一日満

珠丸釜山ヲ発シハミルトニ島ニ泊シ同三

日発程シ午後四時漱子島ニ至ル同五日帆

島ヲ週リ水路ヲ回ク三時四十分丁オル子
ルニ来リ函館丸ニ逢ヒ七日頂山島ニ着ス

ト云

午前三時橋本丸ヲホル島

同八日 雲三凡一寒暖計五五 午前十時五十分森

山茂及荒川徳流中野許太即小林可也等日進

艦ノ小汽艇及ヒ哨舟●ニ干奉夜ノ食糧并

必需物品ヲ輸積シ江華府ニ進往ス此時儀

仗兵モ亦陸路ヲ取テ該府ニ到ル皆而大臣上

陸ノ準備ヲ為スナリ

此夜江華上陸ノ序況儀仗ヲ定ム

一九日草芝倉使ヨリ韓船二隻ヲ借り一隻ニカツトリシク砲四

門ヲ載セ永山准少佐并ニ照準者四名及ヒ砲手ノ内二十五名ヲ添ヘ

一隻ニ八食料運搬俵及ヒ砲手ノ内十六名及ヒ松岡讓等六名乗但ニ同

日午後一時頂山島ヲ突スヘシ

一同早前八時町田実勲及ヒ甘利後知矯龍丸水夫二名ヲ將テ草芝

ニ進キ置ケル馬ニ足ヲ率ヒ江華府進往スヘシ

一或午後一時雨大臣諸隨員ヲ率ヒ頂山島ヲ突ス大礼服

用山同時ニ日進艦ヨリ祝砲ヲ突スヘシ

一玄武丸ヨリ脚艇二隻ヲ突シ一ハ隨員ヲ搭シ一ハ旗帶ヲ

品ヲ載セ小汽艇ニ曳カシムヘシ

一先ニ江華府ニ在ル儀仗兵并其他人員ハ午後一時四

十分鐘海門外ニ整列シ大臣ノ到ルヲ待テ前後ヲ擁

衛シ該府ノ公館ニ入ル

一カツトリンク砲ニ属セル人真儀仗兵ノ後列ヲ距ル
百ヤルドノ處ニ在リテ行進スヘシ

十午陸人負百未名八日未名九。未名十。

六時町田安藪甘
利後知船ヲ登草
芝ニ抵リ陸路江華
ニ赴ク

同九日 風三凡ニ寒度三五度 午前九時三十分海

兵若干^五舟ニ草芝鎮ニ上陸シ陸路江華存ニ赴
カントス高雄丸其哨舟一隻ヲ船門ノ下ニ繫
キ船艙ヨリ長繩ヲ以テ緊綁シテ揺カサラシ
メ以テ海兵十六名及ヒ水夫一名ヲ乗ス段ニ
ト^舟其舟ヲ放テ傍近ノ小汽艇ニ曳シメ
以テ草芝岸ニ連^トト故^ト船ニ綁リタル
恒^リ弛^ム時適々退潮ニ際シ水勢甚ク險惡恒
ノ弛ムニ乘^テテ舟掀動シテ激浪體ニ及^ガ弛^ニ
オ^シ者狼狽尤モ甚^ト再^ビ其恒^ヲ取^テ緊張

ス於是カ怒潮ニ激シ舟忽焉トシ傾覆シ可憐
ナセ名ノ性命死生間ニ髪ニ容レテ諸船之ヲ
瞰テ遠處各哨舟ヲ出シテ之ヲ救フ高雄ハ九
人ヲ援ヒ函館ニ二人玄玄ハ四人合計十五人
ヲ扶クト雖凡カテ治トル能ハク二人ハ於ニ
淪没シテ其漂フ所ヲ知ラズ此日寒甚シク善
酒者ト雖凡恐ラク予^足電シテ^其術ヲ施ス能ハズ
況ニ^{後舟華北ノ大待臺ヲ負ヒ其体自由ナルヲ得ス而シテ又潮流迅急時際之}濁浪滔天ノ勢ヲルニ在テ^死マ午後三
時ニ至ルニテ其死體ヲ探索スレ凡見ヘス依
テ高雄ノ士官ニ命ジ其籍貫年齢ヲ調査セシ

ムルニ其二人ハ

佐賀縣士族

江口麟太郎

廿二年九月

秋田縣士族

石渡勘次

十七年十月

午後一時永山^{准少佐}威輝四十衆名ノ砲手ヲ率ヒ松
岡壕ハ厨丁給仕等ヲ^{幸記}糧食ヲ^{幸記}鞆船ヲ^{幸記}外
費^{載セテ}ラシ江華府ニ進ム其準備左ノ如シ

草芝會使ヨリ鞆船ニ隻ヲ假借シテ一隻ニ
ガウトルシク砲四門ヲ載セ永山^{准少佐}威輝等ニ

照準者四名及砲手ノ内二十五名ヲ添へ
一隻ニハ食料運搬ニ供スル為メ砲手ノ内
十六名及ヒ松岡謙等十名乗組ニ同日午後
一時頂山島ヲ発シ津華ニ進駐

同午前八時田実鞠及ヒ甘利後知精就丸
水夫二名ヲ將テ草芝ヨリ維キ置ル馬二匹
ヲ引キ進駐ス

十日 雲七風ニ寒暖三八度 午後一時雨大臣丈

武随員ヲ率ヒ木礼服ヲ著シ海兵三十名之ヲ
擁護シ祝砲十九発シテ江率ニ発向ス第一小
日進請艦祝砲

汽艇ハ脚舟四隻ヲ引キ第二汽艇ハ一隻計
九隻各ニ日旗ヲ飄シテ江ヲ下ル水屈曲シ
幅漸ク狭シ兩岸ノ砲台益進ヌハ益多
ク或ハ岸頭ニ突出シタル絶壁或ハ平坦ノ坡
頭ニ堤ヲ築キ長蛇ノ故智ヲ襲ヒ或ハ泥邊ノ
村落ニ砲川ヲ穿テ増竈ノ覆轍ヲ穿ル此是
該國樞要ノ地タルヲ以テ觀ル可シ而テ到ル
處ノ山皆兀突トシ橋木ヲ生セズ其警蒼トシ
テ眼ヲ慰ムルモノ無ク後カニ府頭ノ一
山アリ船中ヨリ隱見ス船進ムニ隨ヒ岸頭白

初ノ韓人無數奔走スルヲ見ルニ二里余ニテ蒲
舟鎮海門ニ着ス是ヲ江華南門トス此處亦胸
壁四方ニ連リ餘カニ進メハ漢江口ニ至ルハ
シ京城ヲ距ル一七七里ト云兩大臣ノ船既ニ
其他諸官員及海兵砲手等皆来リ迎フ兩大臣
上陸ニ及テ海兵衆ヲ奏シ且捧銃ノ礼ヲ為シ
前後ヲ復衛シテ三時四十分江華府副帥營ニ
着ス先皇森山等豫メ假リテ我公館ニ備フモ
ノ下リ兩大臣乃チ宮本大丞森山推大丞永山有少佐盛輝
兵之ヲ護シ被圍大臣申摠ノ旅館沁都通判衙

門ニ至ル衛兵一半ヲ第二門内ニ留メ一半ヲ
階前ニ整列セシメ彼兩大臣ニ正廳ニ接シ礼
了テ直ニ歸ル四時三十分彼兩大臣亦衛兵無
数ヲ率ヒ途上衆ヲ奏シ我館門外ニ至テ罷メ
第一門ニ入ル則チ海兵捧銃以テ式ヲ為ス茅
二門ニ及テ轎ヨリ下リ恭然トシテ左右ニ扶
ケテ須テ階ニ上ル兩大臣出テ接シ茶菓烟等
ヲ供ス此是日彼大臣白袍ヲ着右帶ヲ横へ雙櫻
四翼唐冠ト稱スル者ヲ戴ケリ其面暗スル所
ハ續只禮ノニ他禮ニ及ハスニテ去ル

午後六時浦瀬裕ラシニ明日午後一時ヲ期シ
公幹ノ商議ニ及フヘキヲ告ゲシム

同時書ラ江華留守ニ致シテ溺死海兵ノ^死又^死體
察見セバ速ニ報知セラレシムテ依頼ス

同ハ時^海玄昔運来テ頃日京師ニテ激徒不
リ跡ヲ^海臆マシメ脱逃セシニヨリ請フ戒嚴セ
ラヨト報ス

同十一日^重四風ニ寒晴計三四度^午九時二十分差

備官李濟屏来リ我兩大臣ノ安否候^ス午前十
時三十分官本^大一小牧^幹昌業出テ留守述事式

ヲ訪ヒ我兩大臣ノ着府ヲ報シ且ツ旅館^ハ等^ハ
特別ノ配慮ヲ謝ス

是日我紀元節ナルヲ以テ諸艦祝炮アルヘシ
ト豫メ彼大臣^官ニ報告ス

午後一時兩大臣官本^大一小森山^推長^大小牧^幹昌業ヲ
將テ西門内ノ練武堂ニ至^シ差備官之ヲ導^ク

是ヲ辨理事務商議ノ始ト為ス彼兩大臣^官也
先^ニ竿^ニ在^リ談判^ステ^ハ酒饌^ヲ饗^ス

茶 クワスリ 生栗 乾柿 色餅 菓菓
梨子 燂印子 明太 乾棗 松子 菓 鶏
蕎麥 此間金鼓蕭簫笛鉦ハ音鏘鏗ト^外ニ奏

又
上皇十時上院拜シテ頌ヲ為ス或人曰東周
古案今猶漢國ニ存セリト人鄆陵ノ季子ニ
派名要リ其果々真ナルヤ否ヲ知シ五時帰館
尋テ其鑰ヲ饋リ来ル 毒能者夫録○使御始末○詳カナリ
午後七時御主昔運来ル宮本大至十一之ニ接ス
同十二日 雲四凡一寒暖四五 午前四時十五分玄
昔運其大臣申摠ノ意ヲ以テ浦瀬裕ヲ己カ宮
ニ招キ密ニ語テ曰頃日大院君服心ノモノ兩
名ニテ貴國兩國ノ和好ヲ妨ケント欲若干ノ同
志ヲ唱若干聚シテ京城ヲ脱シタリト在京大臣ヲ

リ急使ヲ以テ報知アリカモ現今物色シテ嚴
拿ノ令アレハ不日之ヲ捕縛シテ死刑ニ處スル
ハ勿論ナレ凡其間若シ彼黨竊發シ貴國人ニ
對シテ不敬敬ヲアケルハ貴國人立トコ
口ニ之ヲ斬ラレモ弊邦ニ於テ脚力異議ナシ指
其蕩平ニ歸セハ速ニ其由ヲ報スヘシ今
先レ此事ヲ以テ君ヲ煩ハ貴國大臣ニ稟セ
ラヨト乃チ之ヲ大臣ニ報ス大臣以テ意トセ込
午前九時御主昔運来ル宮本大至十一之ニ接ス
玄乃チ彼大臣ヨリ我大臣ニ贈ル黄牛五頭鶏

五十冊ノ目錄ヲ呈ス大臣辭セシメテ曰厚意
佩感淺カラズ余モ兩國修好ノ^議未タ央ハナ
ラ^ルズ斯ル贈物ヲ受ルハ本大臣ノ意ニ非ズ
使事了結ノ期ニ至^ル自カラ贈答^スノ日ア
ルヘシ故ニ請フ之ヲ辭セント終ニ受ケズ此
時^倭偶々脱奔人ノ事ニ及ブ宮本曰ク今朝貴^國
大臣ヨリノ警報^本大臣ニ於テハ意内ニ領セ
ラルト雖^其吾國中ニ兇徒アリ之ヲ蕩平スルハ
君主タル者ノ責任ナル^ニ論^シテ^ハ安^ク遠人
ニ波及セシム可シ然リト雖^其本大臣ハ自ラ

本分ノ備ヘアリ縱令幾百千兇徒アルモ敢テ
之レカ為ニ戒嚴シ^若另ニ其措置ヲ變スル等ノ
一無ル可シ且^又貴國兇徒我隨員^衆士等ニ對
シ無礼凌辱ヲ加ヘ或ハ其兇暴ヲ逞フスル等
ノ事アレバ^即是貴國政府ノ不理治ト見做サ
ハル可ラズ事一^ニ也^ニ此ニ至ラハ兩國ノ交驛
復タ儀ス可キニ非ズ本大臣唯國旗ヲ捲テ歸
朝セシノミ^而貴國悔トモ何リ及シ本大臣
底意此ニアリ請フ宜シク其意ヲ體シ之ヲ貴
國政府及ヒ大臣ニ告ケ^ル相^言曰ク諾^ス

了て去ル

午後一時^新雨大臣官本森山安田小牧等ヲ將テ
執事廳ニ至リ彼雨大臣^官ニ應接シ條約書草案
ヲ示シ此般使事ノ大眼目ヲ説明ス彼レ十日
間ヲ限リ京師ノ裁決ヲ仰カン^テテ請フ之ヲ
諾ス 本文録應接使鮮始末ニ詳ナリ
部ニ詳ナリ
昨夜玄音運來^テ遣シ^{條約案}交際録ヲ借覽セ^テテ
ボム我之ヲ許ルヤ否

同平三日

雲ニ凡一寒暖計四三
度晴雨計三〇二四

午前八時三十分

仁礼景範來リテ昨日午後二時呂川丸石炭ヲ

積テ永宗城ニ着シタリト報ズ

午後一時雨大臣官本森山安田鈴木等ヲ將テ

執事廳ニ至リ彼雨大臣^官ト面儀ス^テ所^テテ

島滯館是ヲ第三回ノ談判トス^テテ^{條約案}ニ詳

午後三時^一玄音運吳慶錫ト共ニ來リ^テ國

文條約ヲ漢文ニ訳シ^テ日暮滯^ル權大臣鈴木大亮ニ接ス

同十四日

雲ニ凡一寒暖計四二度
晴雨計三〇二八

午後零四十分

玄音運來ル森山^{權大臣}應接^テ應接録

同十五日

雲一寒暖計四六
度晴雨計三〇四〇

甲櫓差備官ヲ遣シテ^テ雨大臣ノ起居ヲ候ス

應接録ニテ^テト
ノ^テ記^テル^ト是^レ元^前
恒^ニ其^レ應^接ノ^テ大^旨ヲ
録^シ此^レヨリ^テ以下^大旨^ヲ
ト^モ是^レ元^前知^ル可^クラ^ス因^テ
ハ^テ前^後ノ^テ條^約ヲ^テニ
シ^テカ^レ為^ルテ^モ記^スル^ニ宜^シ

原本
此夜異慶館
且レ應接ノ大旨
録スルヲシ然レトモ
前後ノ麻裁ヲ一掃
シカカテ暫ク見合

午後零五十分異慶館より官本雄大正十一應接ス

録二

同十六日 晴 一風 一寒 辰五ニ度 海軍少佐伊東

来リ非常信号試檢ノ為メ本地ト日進艦

浦所ノ兩所ニ於テ火箭ヲ放テ其互ニ相應答

スルヤ否ヤヲ驗セントスルヲ請フ大臣之

ヲ許ス

午後六時随行諸官員ニ左ノ如ク達スル

裁判ノ事件洩漏ス可ラサルハ曾テ嚴諭スル

所ナリ然ルニ当所ハ旅次雜沓且韓人多負館ニ在

ルヲ以テ特ニ意ヲ用ヒ各員任スル所ノ事務ヲ慎守シ嚴

ニ文字散逸言泄宣洩ノ憂ヲ防クヘシ

同八時府内亭子山ニ於テ火箭三発ス試驗ス

ルナリ九時玄音運来テ之ヲ詰ル蓋シ火箭

又発砲ト誤認セシガ為メナリ乃チ浦瀬裕ヲ

以答ヘシメテ曰火箭ハ在浦瀬艦ト在陸士官

トノ間ニ行ハル信号ニシテ喇叭ト同一般ナ

リ決シテ非常警クヘキモノニ非ス其空ニ向

テ放チシヲ以テ知ルヘシ彼ノ諾シテ去ル

尋テ差備官李濟舜モ亦来テ曰昨日貴国人七
八名小艇ヲ以テ通津ニ到リ岸上ニ白旗三旒
ヲ建テ、去レリ其人ノ疑懼尤モ甚シ且我邦
ノ制規毎夕固~~ク~~城門ヲ鎖スハ必
ス酉ノ刻ヲ限レリ然ルニ今夕貴国人三名
●其時限ヲ過テ江都南門ヲ通過セリ將来~~ル~~
~~ル~~所~~ノ~~行~~ハ~~キ~~ハ~~甚~~ク~~我邦ノ憂苦スル所ナレ
自今嚴飭アラシムテ貴大臣ニ懇請セン為メ
我両大臣~~官~~及ヒ留守ヨリ特ニ下官ヲ差シタリ
浦瀨裕又~~ハ~~大臣ノ意ヲ承ケ出テ答テ曰通

津ハ沿海ノ地ナリ其地方ノ妨害ニナラザル
以上~~此~~航行ニタリトテ貴国ノ敢テ答ムハ
キ所~~ニ~~ナラス且本大臣等此地ニ駐留間ハ随員
奔走其南門ヲ通行ス~~ル~~晝夜ヲ分テ難シ故ニ
其之ヲ開テ出入ニ障碍ナカラシムルハ貴国我
ラ遇スルノ道ナラスヤ請フ之ヲ貴大臣~~官~~及ヒ
留守ニ告ケ交誼ニ悖ルノ悔ナカラシメヨ李
濟舜諾シテ去ル尋テ浦瀨裕ヲシテ再ニ玄昔
運ノ宮ヲ訪ヒ~~テ~~火~~ヲ~~箭ノ~~ヲ~~詳ニ調査ヲ任タル
ニ前ニ諭シタル如ク唯一時ノ信号ニ過ズ決

ニテ銃砲ノ響ノ類ニ非ズ後日ニ至ル
以事アルモ必ズ騷擾スヘカラス諒ク沿邊ノ
士民ニ説諭ヲラシム望ム（彼）乃チ其厚（意）ヲ謝
ス

同十七日 雲一風一寒暖四七 陸軍士官二三名漢

江近傍 往テ測量ス

午前十時三十分 李濟舜来リ彼兩大臣及留
守ノ意ヲ傳ヘ昨夜我大臣再ヒ瀋瀨裕ヲ差シ
テ火（事）ヲ諭スハ厚意ヲ示ス

午後七時玄音運来リ京漢江測量ノ事ヲ詰問シ

速ニ之ヲ制止セシムラシク時既ニ其功ヲ竣レ
リ故ニ諾ス其請ニ應ス

内十八日 雲一風一寒暖五三度 午前五時三十分

鈴木大亮頂山島ニ派ス

高雄丸所屬ノ汽艇曾テ沙洲ニ超上レテ毀損
處アリ自今修理ヲ始ムト仁礼景範ヨリ報（大佐）ス

同十九日 雲一風二寒暖四七度 午前八時玄音運

浦瀨裕ヲ其船ニ招キ儀スル所アリ

同十一時五十分 鈴木大亮頂山島ヨリ帰ル

浦瀬裕自己意ヲ以テ蜜柑五六顆ヲ玄符運ニ贈
 ル者運喜ガセシ更ニ若干ヲ請フテ其國王ニ獻
 セシト欲スト言フニ至ル浦瀬裕之ヲ安田少利官定則ニ
 謀ル定則乃チ裕ヲメ更ニ一百顆ヲ贈ラシム
 朝鮮ノ地國境密柑橙橘等ヲ産セス而シテ其俗
 冬至祭ニ當テ必ス之ヲ食スルヲ要スルモ得
 不可僅カニ其國王及ヒ貴族ノミ之ヲ釜山官吏
 ニ會シテ我邦ヨリ購ホシ以テ食スルヲ得ル
 ト云其貴重スル亦宜ナリ
 午後四時官本大丞一野村權大丞請該接見大臣官ヲ見儀

スル所ナリ

同二十日雪一風一寒暖計四七度午前十時玄符

運来ル官本大丞一之ニ接ス午後二時野村權大丞浦

瀬裕ヲ將テ申儀ヲ行フ同五時帰館午後六時

又来ル森山權大丞鈴木大亮之ニ接ス同七時三時

分我両大臣野村權大丞森山少利官安田少利官定則韓事小牧韓事昌韓事紫

鈴木大亮等ヲ將テ執事ニ至リ彼兩大臣官ニ接

シ聖懐一ニ至テ帰館此の使辭始末ニ詳シ

此日最久所國王批准
 云二彼我國ノ修儀大
 旨ヲ痛録スヘキニ似タ
 リ然ラカレリ多ク三痛録
 ノ事何れ所以知
 可ナク

議終ニ協ハカルヲ以テ明日即午頂山島ニ帰艦ス
キ旨ヲ告リ翌曉一時三席ニ使難始末ニ詳シリ即時野村権大丞浦瀬裕ヲ率ヒ
ハト言放テ館ニ時午後二時退ヤリ申摺ノ寓ヲ訪ヒ候
天已ニ曉ク

廿一日 重一凡一案帳計五の正午十二時未也

謙澄公事アリ陸路ヲ取テ玄武丸ニ至ル午後

二時旅具若干ヲ結束シテ本船ニ送還ス帰艦調度ヲ

三時宮本大丞・森山権大丞・野村権大丞・鈴木大丞・清水

ニ前導セシメ申木匠ヲ訪フ。

森山推主鈴本推主先ツ帰り宮本推主森山推主内野
村晴六時後ニ至テ帰ル

此夜我哨兵兩名アリ宙守門前ヲ過グ彼番兵
之ヲ拒ム我兵怒リ其嚙フ所ノ銃ヲ以テ之ヲ
撲ツ少頃アツテ差備官宙守ノ意ヲ承ケ来テ

我ニ詰問ス答フルニ調査ノ上決答スヘキヲ
以テス乃チ仁礼大佐龍紫山——志岐大尉ヲ喚テ之
ヲ戒シム

輿村推主榊雨室村推主ヲ推主往テ申檄ヲ訪フ
兩大臣及ヒ諸隨員明日ヲ以歸船スルニ決ス

同二十一日雲四凡一寒暖計五六度 晴雨計三〇三四午前九時三
十分安田利官定則我兩大臣ニ代リ往テ別兩被大

隨申檄尹治承ニ告グ午前十一時三十分兵慶
錫言昔運来官尋テ彼兩大臣官亦来リテ其帰装
ヲ止ムルヲ甚切ナリ昔迄スナリ而官聽官但本日ヨリ五

日間ハ艦内ニ於テ貴国ノ決答ヲ待ベシ期ヲ
 過レバ直ニ拔錨帰朝ス可シト彼兩大臣情然
 トシテ答フル所ヲ知ラサルカ如シ我兩大臣
 了テ即チ起テ他語ヲ交ヘス終ニ還ル
 午後一時大臣江華府ヲ奔シ儀仗兵前後ヲ擁
 シテ整肅ナルル時ニ同シ中人聚リ觀者注然
 此時猶本館ニ稽留セシ副大臣及宮本小一野村
 靖小牧昌業鈴木大亮及ヒ松園懷石藩員
 若千兵負ナリ是日未松浦澄玄武丸ヲ歸浦瀬裕荒川徳小寺秀信等及
 至ル同ク留ル

月廿三日 晴一風一寒暖五の度 午前十一時武田

甚右郎江華府公館ヨリ書リ齋シ来ル
 即チ彼兩大臣各己ガ真影ヲ寫サシテ我ニ
 依頼セシメ以テ遣ハシナリ依テ河田紀一ニテ
 其具ヲ携テ之ニ赴カシム午後七時小林可也
 亦書信ヲ齋シ来ル

江華ニテハ河田紀一着府セルヲ以テ浦瀬
 裕ヲシテ皮兩大臣ニ説ク前日貴大臣等話
 頭ノ如ク令其具ヲ携テ艦内ヨリ此ニ来レ
 リ速ニ模写セシメバ如何彼大臣病ヲ以テ

△初々我大臣ノ帰國ノ事ヲ癸言スルヤ宮本大丞野村權大丞ヲシテ兩人ノ意ヲ以テ類申據ニ流傳道般ノ事ヲ議若シ協ハサレハ我カ意已ニ決セリ西國ノ交際際遂ニ保ツコラス宜ク早ニ及テ國ヲ改ムヘキヲ以テセシム彼意頗ル動ク大匠ノ決断スルヲ見ルニ及テ益憂懼措ク所ヲ知ラヌ急ニ吳慶錫玄昔運ヲ京城ニ遣リ稟議ス所アリ宮本等ニ約スルニ五日ヲ期シテ決答スルヲ以テ是ニ於テカ知ル事一必不順成ニ至ラシムヲ

辞ス 事前数日未だ應接
ナシ 新當ナシ

先是我海兵ノ溺死ニ及ブヤ江華留守遊兼
式ニ依頼シテ其死屍ノ地方ニ漂到スルア
ラハ宜シ之ヲ収瘞シテ告知セラレシヲ
請ヒシニ該國即チ令_ヲ四方ニ下シ今キ
至ルニテ之ヲ榜索スル_ト甚タ急ナリト聞ク
依_ルテ鈴木大亮ヲ留守館ニ遣リ之ヲ止メシ
ムルニ該件朝命ニ出ルヲ以テ擅ニ中止ス
ルヲ得ス_ト 建_二京_一報_ニテ_テ旨_ヲ乞_フセシ
留守使ヲ遣シテ照影ヲ見シ_トヲ請_フ

海兵一半ヲ頂山島ニ引退セシム

廿四日晴 雲三凡一寒暖計四ハ度 正午小林可
晴雨計三〇三九

也朝鮮国王以下へ進贈品及ニ公書ヲ帶領シ
テ江華府ニ赴カシム

午後二時_{三十分}瓊浦丸頂山島ニ着ス_時

領田中尉 使書ヲ帶テ来ル 午後三時

水夫二名ヲ登_ルニ_テ公信ヲ齎_ラシ江華府ニ赴_カ

シム

午後九時諸艦各火箭一條ヲ発ス瓊浦丸ノ来
著_ルスルナリ

原本韓船ヲ滿珠丸
二種扱ストラレモ恐テ
六ノ有テ誤リナク
船ヲ載セ

廿六日晴雨計三〇四〇
午前九時議シ

テ陸軍大尉勝田 九品川丸

政大臣及ヒ山縣陸軍卿ニ報ルニ條約成ルヘ

シト事ヲ以テセントス

同十時諸艦ヲ大藏條ノ韓錢ヲ滿珠丸ニ移積

セシ今在釜山浦我公館ニ輸送セシムル

ナリ

午後一時三十分大臣文武隨員及ヒ儀仗兵ヲ

率ヒテ頂山島ヲ登シ小汽船ヲ以テ再ヒ江華

府ニ進注ス同四時着館此日朝鮮國王ニ進呈

午後二時瓊浦丸後錨頂山

島

大臣及ヒ諸員ノ再ヒ江華ニ来ルヤ士人舉テ

欣ニ知喜色アリ

約成ルニ至ラハ國君主ニ進呈セント擬スル

回轉砲ノ試驗ヲ為シ

以テ其人ヲ簡點シ来リ就テ其彈藥ノ方ヲ傳

習セラレテテ望ム

前ニ鵠的ヲ設ケルテ二所相距ル百間乃至二

百間ニメ八十発其中ル者六十餘発ナリ觀ル

者歎賞セリ其外ニ其他短銃ノ用方等悉ク之

ヲ傳フ

喇叭

同廿七日 晴雨計三〇四五 度 午前九時兩大臣

文武隨員種田少將 樺山 官本 森山

安田定則 小牧昌業 鈴木大亮 及石橋貞浦 瀬

裕薫 川德 滋等ヲ率テ大礼服ヲ着ニ儀仗兵前

後ヲ推シ館門ヲ出以ルキ及テ道路觀ル者堵

ノ如シ陣鼓鑼鈸以テ衆ヲ整ヘ陳武堂前

ニ蒞ム堂ハ西門内ニアリ民家ヲ距ル一數丁

ニシテ垣牆ノ圍ナク門戸設テク田圃間ニ瓦

然以テ我邦ノ僻陋村落ニ廢類セル佛堂ニ

彷彿タリ其三面ニ幔幕ヲ蔽ニ遠一方ヲ缺

テ出入ノ門ト為ス門ノ兩側ニ兵士樂工排列

シ和兩大臣ノ蒞ムヲ待テ樂一闌ス彼兩大臣

階前ニ出迎ハ既ニ堂ニ上レハ中央卓ヲ設ケ

油紙ヲ以テ之ヲ覆フ其左右ニ椅子アリ皆虎

豹皮ヲ敷ク此堂ニ面共ニ壁ナク其正面屏凡

ヲ以テ遮レリ我兩大臣及隨員ハ右ヲ占ム而ノ南面通梓ハ

彼兩大臣及隨員ハ右ヲ占ム而ノ南面通梓ハ

正面ニ立 於是互ニ條約書ニ印ヲ鈐シテ交換シ

國王批准及議政府ノ謝辭ヲ受領シ次ニ贈

答品目錄ヲ交還ス

贈品左ノ如シ

我ヨリ贈品

回轉砲臺門

彈藥車 連車等架車

緋綿前陣正

壹門 成陣正

白綿 成正

成正

遠短銃 壹挺

壹挺

七連銃 干株

二挺

袖珍裝金時辰表

壹個

布圍

味

壹個

金鏢

壹條

晴雨計

壹個

磁針

壹個

樹國大官中

裝金刀

壹口

六連短銃

壹挺

紫綿

壹挺

鑲金銅瓶

壹對

國史果

壹部

侯國史果

壹部

廣國史異後編

酒

壹部

有接更大臣申
裝銀刀

壹口

六連冠銃

壹枚

學編

壹匹

七寶瓶

壹對

國史果

壹部

廣國史果

壹部

廣國史果後編

壹部

馬

壹匹

江戶村石守越

七連銃

壹挺

海氣筒

壹匹

日本外史

壹部

雨

壹柄

堂上官具

刀

壹口

海氣筒

壹匹

日本外史

壹部

四書

各壹帙

詩箋

各伍卷

色筆

各壹百柄

彩墨

各伍十丁

白細布

各拾匹

白絹細

各拾匹

接見兩大臣ヨリ我兩大臣ハ

大緞子

各三匹

白綿細

各拾匹

白苧布

各拾匹

白木綿

各貳拾匹

虎皮

各三令

各色筆

各壹百柄

真墨

各伍拾丁

各色紙

各伍卷

色團扇

各拾柄

別摺扇

各拾柄

真梳

各叁同

宮本大丞森山權大丞野村權大丞安田小判
官小牧幹事鈴木大亮出仕八名如左

大襪子

各貳匹

席皮

各貳令

豹皮

各壹令

白絹油

各拾匹

白苧布

各拾匹

白木綿

各拾匹

各色紙

各三卷

黃筆

各伍拾柄

真墨

各三拾下

別摺扇

各拾柄

浦瀨四等書記生荒川六等書記生中野六等
書記生八

大襪子

各壹匹

席皮

各壹令

白綿油

各伍匹

白苧布

各伍匹

白木綿

各伍匹

各色紙

各三卷

色團扇

各三柄

真標

各壹同

江華府留守ヨリ我兩大臣へ

生鷄

壹佰首

鷄卵

壹壹千個

大蝦子

壹匹

白盆細

三匹

細綿布

五匹

虎皮

壹領

花紋席子

貳之

鈴印及ヒ贈答事畢テ宴ヲ設ク其薦
享スル所ノ肴饌ハ十一日ニ異同ニ故ニ復記

廿二午辰時事全ク了（結）午後一時三十分歸

艦諸艦皆未リ慶賀ス宮本野村鈴木及ヒ松岡

小林村利等猶留ツテ旅館ノ職務ヲ結束ス

午後三時鈴木大亮留守ヲ訪テ其滞在中諸

般厚意ヲ荷ヒ首尾周（便）ニ帰（レ）タル謝辭

ヲ致シ且明日早朝ニ曾（借）百需（物）品ヲ返

却セシテ約ス

雨（十）八日（晴）一風一寒暖計五三度

午前四時旅館及ヒ借具●●●●●江

華府執事ニ三十名ノ役夫ト米十十俵

深了三

本他 雜品等ヲ將テ午前九時本船ニ帰
ル於是這般 事務

同十八日 午前十時頂山

島碇泊ノ諸艦皆碇留シテ碇ノ内球丸、筒キ

ヲ棄ルハクニテ 掃未發セ

許方郎及ヒ韓語生徒七名ヲ棄セ 帶テ釜

山ニ往ク

同廿九日 雲一風一寒暖計六四度 午前八時對州

テ船駛ル一矢ノ如シ午前其先發スル函報品

川矯就日進孟春ノ諸艦ヲ廻遊ス

三月一日 雲二風一寒暖計六四度 午前八時對州

葦原外洋ヲ過ク午後二時十五分六連島畔ニ

東京丸ノ長崎ニ往クニ途ヲ午後三時三十一

分馬関ニ投錨ス中判官堀基 等此ニ在リ艦

長官大臣ヲ迎フ午後四時三十分兩大臣上陸

シテ豊永号ニ懇ヒ大臣八十時三十分副大臣

ハ午夜ヲ過テ帰艦

此夜一時三十分本船急潮ノ為ニ流移セラレ

近傍ノ商船ニ衝突シ共ニ毀損アリ

同日 雲三風一寒暖計六三度 午前四時投錨天荒

晴澄水波穩ニシテ進注頗ル疾シ

同日 雲三凡一寒暖計六一度午前四時淡路島

一浪少侍ニ波浪漸ク高 船動揺甚ク夕刻九

時 幸ニ稍靜シ

同日 雲三凡二寒暖計五六度 風順ニシテ強ク

一時間平均十有二海里ヲ走ル快進此ノ如キ

ハ月未見此艦希ニ遭フ所ナリト云フ

同日 雲三凡二寒暖計五〇度 午前十時品海ニ

着ス兩大臣及滿隨員亦干上陸ニ申開拓使ニ

會シテ復命式ノ建テルヲ待ツ馬関ヨリ航

電報 兩大臣歸朝ノ報セリ其

路ヲ計ルニ尋常船舶明日ニ非レハ品海ニ入

ルヲ得^ガ而テ此艦快駛非常加ルニ凡順天晴

故ニ數時間ノ航路ヲ縮メタリ是其式未夕定

中ニ及ハサル所ナリ安田定則^{●●}正院ニ極

ク兩大臣ノ歸朝ヲ報シ其復命式ヲ承テ歸ル^ルヲ

辨理大臣黒田清隆副辨理大臣井上馨^{●●}

朝幸^{●●}

一三月四日式部頭會ヲ奉シテ横濱へ出張

一本日正院ヨリ馬車一輛横濱へ差廻シ置

辨理大臣ノ乗車ニ備フ

一五日辦理大臣~~理~~臣着艦ノ旨稅関ヨリ報知アリ直ニ式部頭該艦ニ出迎フ

一辦理大臣着艦ノ旨式部頭電信ヲ以テ正院ニ報知ス

一海軍省ニ小蒸氣ヲ備ル所ヲ以テ辦理大臣以下ヲ迎フ既辦理以下隨行ノ者ト共ニ上陸馬車

前日正院ヨリ廻シニテ休所ニ着ス大藏省出置ク所ノ車下リ張所ヲ用ク

一大臣休所ニ於テ辦理大臣ヲ迎ラル

一辦理大臣以下ニ酒饌ヲ賜フ

一頭電信ヲ以テ正院ニ報知ス

一時刻大臣辦理大臣以下列車中別ニ設クル所ノ三輛ノ汽車ニテ新橋鐵道館ニ着ス

一同所ニ儀仗兵歩兵大隊騎兵小隊整列騎兵ハ途中

獲衛歩兵ハ同所整列

一時刻大臣辦理大臣副辦理大臣等席料ノ馬車ニテ正院ハ参入巡查途中非違ヲ監

ス

参官式

一 辨理大臣副辨理大臣正院臨御御門ヲ乗車ノ後参入正院前庭ニ於テ下車

一 主上正廳階上ニ於テ辨理大臣ヲ迎ハ給フ階上南ノ方ニ大臣参儀大史式部頭等列ス宮内卿侍從等御後ニ候ス

一 主上辨理兩大臣ヲ率給ヒ内閣ニ入御御對面輔讀アリ大臣式部頭候ス畢テ入御辨理大臣退ク

一 更ニ出御辨理兩大臣ヲ召シ復命ヲ聞食

ル大臣参儀外内務大臣陸海軍省長官班列ニ床ヲ賜フ畢テ入御退出

一 大臣休所ニ於テ祝酒ヲ賜フ三職接待ニ一辨理兩大臣玄關ヨリ退出騎兵大臣ノ郎

近獲衛途中巡查非違ヲ暨ス

此式成ルニ及^先テ兩大臣ハ則チ既ニ着セリ故

ニ翌五日兩大臣更ニ新橋鐵道館ニ到^其リ當

ノ隆遇ヲ辱フ^當式内ニ排列アル^當大臣及諸員

ハ勿論東京人民総代等迎ヒ慶スル者最モ多

ク市街毎戸国旗ヲ掲ケ以テ萬歳ヲ唱フ^是日ヨ

り参官復命及^レ出^レ都^三府^職接待^等優遇ノ^レ
次第^金歸朝手續ノ如シ

使解日記 畢



